

## 胡適

胡適を紹介する前に、彼が現支那に於て有名であることを喋らねばならぬ。日本人の多くは、支那のことを知つてゐさうで、案外、無智である。内地へ行つて、北京へ歸るとでもいはうものなら「うちの息子が漢口に行つとるのだが、梅干を一桶持つて行つて呉れまいか、何かにほんのちよつとした小ぼけな桶なのですから」等と頼まれる北京と漢口とが大阪と京都、目と鼻の距離位しか離れてゐぬものと、心得てゐるのだから溜らぬ。何のことはない下關と東京よりかまだ遠いのである。で、胡適の月旦を、今更くどく／＼やつてゐても知つてゐるものは、もうちやんと解つてゐる、知らぬものはもう讀む氣にならぬ、であるから、甚だ以て心細い譯である。少しは書く者の氣にもなつて呉れるがよい。

就いては、胡適が現代で、非常に有名であることを、先づ吹聴に及んで、成るべく多くの讀者を引着けやうといふ魂膽である。——ははあ、可成閑話休題、本論に入つて欲しいものですな。

では、無駄話を止めて、愈々胡適論に入るとしやう。彼號して適之と呼ぶ。胡は彼のファミリイネムである。若しか物好にリタライイに解釋するならば、胡は何處いふ意味を有する。適、之は共に行くの意。「胡適之」を「何處に行く」と解く。クオヴァヂスと解く。

渾沌たる支那、混亂せる中國、に何の歩みがあらう謂ふものがあるならば、それはよく支那が解つて居らぬものであらう。成程支那は渾沌としてはゐるが、よく聞けばそこに警へば氷河の動くに似たる進行がある。どこにとは得言はねど、耳に聞えるべく餘りに大きい響きを立て、じり／＼と滑り行く。成程支那は混亂してゐるがよく見れば警へば、大地が日夜動ける如く、何處にとは得言はねども、眼にて見ゆるべく餘りに大きいスピードに展開し行く。

支那はあれで、行手を露はしてゐる。かすか乍らも其處此處に辿る行道が伺はれる。その行手を眺める爲に、胡適之君を月旦して見ることは、怎んなものであらう。彼は「何處に行く」といふ姓名だによつてねえ。支那は何處に行く支那は胡適之？洒落としては餘りに、穿ち過ぎてゐるではないか。

私達は胡適を月旦するに當つて非常なる興味を感じる。



彼は一八九一年十二月十七日上海に生れた。といふとつまり今年三十四卵の歳である。父胡培輩は相當名ある儒者であつたが、彼が四つの年に死んでしまつた。母は彼を伴ふて父が郷里安徽省績溪縣に歸つた。家には傳來の漢籍が多かつたものであるから、伯父に就いて孜々として勉強した。彼が洋行歸りであり乍ら漢學の押しも押されぬ實力を有するは、全く幼少の勉學が賜物である。十三歳になつて上海に到り、いろんな學校に籍を置いて學問したそうである。上海遊學中の彼が學生々活は決して樂なものではなかつた。或時は競業旬報の記者に雇はれ、或時は家庭教師もした。二十歳の時團匪賠償金に依る米國留學生募集に應じて留米し、コーネル大學に入學した。

何を専攻してやらう、種々と考へたのであるが、農科をやることに決めた。別に大した動機があつた譯ではなく、只見たところ祖國に比べて何よりも農林が發達してゐるのに驚いたからであつた。その廣大なる、その平坦なるよく米支相似たる大陸なるを眺め、今更の如うに、祖國の原始的なる農業を顧みて、彼は先づ農科生たることを目論見たのである。その計畫は道によかつた。け

れども勉強してゐる裡に、自らの持てる天分は、農業研究に何等の感興を抱かなかつた。彼は矢張詩集だの、哲學書を好んで耽讀したのである。

もう農科は御免だ。彼は文科に轉じた。一九一四年ブローウニングに關するエッセイを書いて、ハイラムコーソン賞を貰つた。マスター・オブ・アーツを得てコロンビア大學の哲學科に入つた。ドクトル・ジョン・デュウエイに指導を受けて、ブラグマテズムを勉強した。「古代支那に於ける論理の發達」といふ論文を書いて哲學博士の學位を獲た。それは墨壘哲學に關するものであつた。外國からの學生が、自國の材料に依つて論文を綴る時には、譯もなく學位を得らるゝの特典と慈悲の權能を有する筈であるから、ドクトル・フィロソフイ位には、さう驚愕する義務はなからう。が、胡適の論文は殆ど例外的價值を有する獨想であつたといふから、そう一概にいつて貰ひ度くないとのことである。

彼はコロビアの學窓から陳獨秀の編輯する「新青年」に向つて、砌と寄稿した。その頃の論文が所謂文學革命を捲き起したのである。彼の歸朝する頃には己に相當有名なる新人として、支那思想界に知れ渡つてゐた。



新しい思想者、危険なる人間が氣に喰ふ蔡元培は、早速彼を迎へて北大の教授の椅子を提供した。三日見ぬ間に櫻かな。彼自身すら自分がかうまで本國に、有名になつてゐやうとは、思はなかつた。彼は到る處で講演等頼まれて、大に持て囃やされた。

陳獨秀去つて後、胡適は北大になくはならぬ一枚看板になつて仕舞うた。歌や詩は賣れる、書く本は飛ぶ、喋る演説は喝采である。西洋人も彼を歎賞し、日本人も彼を推稱する。旅行者は北京の天壇を見る時間を持合せなくても、名所胡適を見物して行くといふ鹽梅である。

若いものがもてる位、毒なことはない。この頃ではもう、「努力」といふ週報も書かねばならず、林長民と政治運動もせねばならず面會人も多い。さて何時中國哲學史の中巻が出るであらう。「死線を越えて」のやうに、最初の一卷には上とも中とも附記して置かなかつたら、惻惻であつたかも知れぬ。忙しくなつたといふことと、偉らくなつたといふことが、同一である限り、それは全く喜ぶべきことでありましょう。

### 三

胡適のやつた仕事の最も大いなるものは、謂ふところの文學革命である。言ひ換へれば彼をし

て名聲を博せしめしは即ち文學革命なのである。

文學革命は民國五年十月、當時留米コロンビア大學に在つた胡適が、陳獨秀に寄せた書面から始まつてゐる。足下は「吾國の文學は、古典主義理想主義の時代にある。今後は宜しく寫實主義に赴かねばならぬ」と言はれた。實にその通である。「新青年」三號に某君が長律の詩を寄せてる。記者はそれを希世の音だと推稱されたが、其詩には古典套語が一百も用ゐてある。古典套語を用ゐるは自らに創造の能力がないからである……自分は年來文學改良に就いて考へ來つて、今日八個の改良規則を手に入れた……足下は世界文學の趨勢に通曉して居られ、また文學改革の宏願を有せらる……一考に供する……」

この書面を読んだのは陳獨秀である。「文學革命の氣運醞釀して己に一日に非ず、其首めて義旗を擧ぐるの急先鋒を吾友胡適と爲す。余は甘んじて全國學究の敵たるを冒して、高く「文學革命軍の大旗を張つて以て吾友の聲援を爲す。旗上大書特筆す。吾革命三大主義を、曰く貴族文學を推倒して、國民文學を建設す。古典文學を推倒して、寫實文學を建設す。曰く山林文學を推倒して、社會文學を建設す。」之が陳獨秀の胡適を聲援する文章であつた。胡適を先づ認め先づ推稱し



たるは陳獨秀であつたことは、私達の忘るゝを得ぬ事實である。

胡適の文學革命の眼目たるべき改良規則といふのは、

- 一、須言之有物
- 二、不模倣古人
- 三、須講文法
- 四、不作無病之呻吟
- 五、務去爛調套語
- 六、不用典
- 七、不講對仗
- 八、不避俗語俗字

の八個である。くわしいことは先年「日本及日本人」に寄せた私の論文「支那思想革命と文學革命」につゝ知つて貰ひたい。

要するに文學革命とは恚うである。つまり、支那の文學はありもせぬことを、大げさに書く。

それがいかぬ。また古人の言葉を引用して、得意になる。それも面白くない。韻律を合せる爲に文法が無茶だ、それは無論よくはない。そうして無暗に非難する、それも賞むべきではあるまい。對句などいふことは重んずるに足らぬ。俗語は決して避けるに及ばない。結極、日常語——白話を用ゐるがよい。

彼の「文學改良芻議」にある内容をサンマライズせば、以上の如しである。さて北京のトイフエルドレツク先生辜鴻銘の曰く、改良とは讀んで字の如く良を改める。良を改めば惡の外變りやうもあるまい、成程そういへばそうである。何だか知らぬが兎も角、そうも皮肉られる程に兎角革命されたる白話文に。驚く程の大文章がまだ見當らぬのである。

原來支那文は、象形文字の特長ともいふべきは簡にして盡き、一言よく深長なる意味を有するに在る。所謂含蓄ある文章である。然るに文學革命に依つて勃興したる、白話文學——言文一致にありては冗漫にして、雅味なく、平易なれども平凡たるを免れぬ。けれども、そこに平民的な、科學的な特長が存する。



胡適の文學革命は、確に支那文學史上に於ける一大事件であつたに相違ない。さうしてそれは殆ど發達の出来る丈け發達し、熟する丈け熟した支那文學が、行詰りを感じてゐる時に、全く別なスタートを切つたことになつた。後學がどんなにきばつても、先人を超ゆること難き情況になつてゐた。その行詰りを解決したる所に、意味が存してゐた。

泰西の文明が老大國の岸を洗ひ始めてより、新思想はどしどし支那に輸入せられた。其新思想なるものを詮じ詰めれば、古い支那思想にも、ちやんとあつたものである。只新しいといふはそれが横文字で表現されてゐる所にある。新しい酒は新しい革袋に盛らるべきである。新しく入つて來た思想も、矢張新しい表現に依らねば、特に支那に於ては、新しくなくなる。そこで、白話文學はその新しき思想を、新しき時代に表現する、新しい發表なのである。横文字をそのまま、豎に書き換へたものが、白話文ではあるまいか。

文學革命の動機が右いふ如く、横文字の感化であることには、無論異論あるまい。同時にそれは翻譯から動機着けられたものに相違ない。林琴南が英文小説を翻譯する時に「勃然大怒、拂袖而起」と書いてある。洋服には拂ふて起たうも、袖がない。多分劍橋大學のガウンでも着てたの

であらうが、それにしても可笑しい。洋文を支那文に翻譯する時には、どうしても從來の支那文では、話がびつたりせぬ。白話であるとなれば、些かの困難もない譯である。

以上述べた所に依つて、讀者は文學革命の功過を諒解して呉れたであらう。所でこれを読んで何人も感ぜられるであらう、「支那文學革命は、結局何のことはない言文一致の提唱である。支那のその何は、まだその邊にうろつてゐるのか」と。然りその通りである。

それなら何ぞ、留日學生がその文學革命とやらを、お先に提唱せなかつた。何といふ下手なものである！それがコロンビア大學の學窓から、叫ばれたとは！それはつまり、燈臺元暗らしであつたのと、日本で言文一致を見せつけられた支那人が今頃大きな聲で、事珍しく絶叫する氣にならなかつたのだらう。それを今更ことごとくしく絶叫しては、支那はまだその程度であるかと言はるゝのみであるからである。

では誰もいはなかつたかといふに、實は章大炎の如きは、其門弟と遠い昔に東京でよく語合つたのである、否ぼつゝ白話を用ゐてゐたのであつた。それでは何故に、胡適のみが文學革命の名譽を獲たかといふに、それは別に大した譯ではない。其「文學革命」といふ大看板が人氣を得



たので。而も其上に之を泰西文學發達史に依つて、裏書したから、勢、天下を風靡せざるを得なくなつたのである。

## 五

次に彼の「國語文學論」を紹介せねばならぬ。胡適は歐洲各國に於て、各國語がそれごとく、怎ういふ工合に發達したか、國語發達史に怜悯なる眼を据ゑたのである。イタリア語はラテン語といふ死語の中に育つたトスカニイ地方の俗語から發達したものである。ドイツ語、英語皆之に類してゐる。

イタリア語を發明したる者が、誰であるかは解らない。が、ダンテがトスカニイの方言で以て、神聖喜劇を創作した爲に、これがイタリアの國語とまで成つたのであること丈は確である。五百年前チヨルサーが、中部方言を用ゐて試歌散文を作り、ウイクリフがバイブルを翻譯した爲に、英語が生れたのである。ルツテルが獨逸語にバイブルを書き更へたることに依つて、獨逸語が發達することゝなつた。斯の如くに支那には今、幾つもの方言俗語がある、けれども若しかこゝに、俗語を用ゐて大文學を書く者があるならば、そこに自ら支那國語を作ることが出来る。官語を

制定するよりも、國語統一の政策を計畫するよりも、もそつと有効なる國語製造の仕事は優秀なる文學を創造することである。

だから我々は、ダンテ、チヨサー、ウイクリフの如く、白話の大文學を建設しようさうすれば自ら、國語は統一せられ普及されるであらう。「國語文學即文學的國語」それは、彼が文學論のモットーである。

この議論が、餘りに研究的に書かれてあるが爲に、多くの國語統一論者は、嗚を靜めて、傾聽したのである。支那は先づ國語を統一せねばならぬといふのに、國音制定だとか併音文學の考案だとか、一時は随分喧しかつた問題であつた、然るに胡適が例を西洋に取つて、一撃の下に「國語統一論」を粉碎して仕舞ふたのである。

胡適の議論は追に、一理あると思ふ。成程英語、獨逸語、佛蘭西語は、そつといふ風に自然と今日如く發展して來たであらう。政府の政策よりも、偉大なる文學の方が屹度大なる力添を爲すものに相違ない。また胡適彼自ら率先して詩を創作し、文章を綴つて新支那文學を興し、同時に新支那國語を産出せむとする「努力」に敬服せざるを得ぬ。



がしかし、國語を自然發達に委せて、國語文學に依つて自らなる發達を待つといふことは、餘りに呑氣なことでありはすまいか。英語ですから五百年を要したのであるから、況んや支那語にあつては五百年や千年は待たねばなるまい、それは支那流に待つとしやう。しかし歐洲に、伊、獨、英、佛の幾つもの國語が生れたる如くに、自然發達に委せて置いたら屹度支那にも、仰山の國語が出来るであらう。胡適さんはエスペラントに反對なのであるが、今日では自然發達を待つて、國語を統一しやう等いふまどろしい議論が失せて、人造語を以て、世界の言語を統一しやうといふ計畫すらあるのである。

また、ダンテだのウイクリフだのといふやうな文學者が、そうびよこ／＼輩出するものではない。例を歐洲にばかり取らないで、米國の國語統一政策を参考せられたらどうであらう。決してジヨナサン、エドワードとか、ロングフェローとか、エマルソン、ホイットマンといふ、宗教學者、文學者、詩人が米國語を英語に決めたのではない。それは矢張り政府の採つた方針に依つて決定されたものである。政府が大文學、大詩人に委せて、アメリカ語の出来るのを待つてゐたとするならば、多分エスペラントの如くに英語とも着かず獨逸語にも非ず、フレンチとも異なるアメ

リカ語が發達したかも知れん、何とならば、アメリカはそれ程に、各國人が入り込んで混住してゐるだらうから。それにしてもエスペラントの如くシンプルなものではなく、重寶な言葉に非らずして複雑なごちゃ／＼した國語が生れたであらう。而もそのごた／＼のアメリカ語すら、出來上る爲に幾世紀かを要したに違ひない。

胡適さんはもつと手近な例を、日本に採られたならば、あゝいふ國語建設論を、考出されはしなかつたであらう。日本では、遂ひ數十年前西郷隆盛が、白虎隊で名高い若松城で、城明け渡し交渉の爲に、謡曲で談判したそうである。それ程に方言俗語が借用されてゐた。然るに國語統一の政策と、交通機關發展の結果、五十年を待たずして東京の言葉が全國に普及したではないか。ダンテよりも鐵道の方が、文學よりも政策の方が、遙かに迅速に國語を統一せしめたのである。「建設國語文學論」は、まことに雄偉なる誤謬であらねばならぬ。それが餘り雄偉なるが爲に、國語統一計畫を粉碎したり、種々頓でもない影響を及ぼす。

白話文學の創唱、それは甚だ賛成である。けれども大文學に依つてのみ、國語は統一される等いふ議論は、あんまり感心出來ぬ。如何に支那中の新人が同感しても、我輩には共鳴されぬので



ある。

元來支那の言葉は、西洋語と違つて、音が統一されてゐないのである。字にて表はせば、福建と吉林と相談し、四川と江蘇と相語ることが能きる。只之を音にて表はせば、陳糞漢糞なのであるから、眼から眼に傳へられる文學が、どんなに白話であつても、決して國音は統一されつこない。依つて、國語統一に國音統一を兼ねしめねばならぬ支那に在つては矢張教育政策に俟つより外途はあるまいと想ふ。

## 六

文學革命は胡適の名聲を支那全國に廣めた。そうして歐米人は支那にルネッサンスが來つたことを知つた。新支那の明ゆく鐘の音をその文學革命に聞いたのである。謂ふ所の文藝復興の時代に、胡適の占むる位置は、大したものである。かくの如くに支那人と歐米人とは、胡適を文學革命に依つて、見出したのであるが、日本人は寧ろ彼の支那哲學史大綱に依つて彼を認めた。

前にもいつたやうに、文學革命は日本人に取つて、餘に平凡なる仕事であり過ぎた。日本ではもう随分前に、片假名が賀茂真淵に依つて、平假名が弘法大師とかに依つて、捺へられてゐた程

であるから、支那の文字改造とか、文學革命とかには、そう感服出來なかつた。或はこの場合、事珍らしう思はれなかつたといつた方が、適當かも知れぬ。然るに、胡適の支那哲學史大綱が、出るに及んで、漸く漢學者が齒牙に懸けるやうになつたのである。

原來、支那のことと言へば、渦巻く、又猫の目のやうな政變にのみ、注意を拂つて、思想だとか、運動とかに、感興を有せなかつた。有してゐても、極く片手間の研究に在つた日本の支那通は、胡適の文學革命だの、文化運動には、門外漢を決め込んでゐたのである。であるから胡適が、哲學研究者として認識せられるまで、殆ど齒牙に懸けなかつた。只、ほんの顎であしらつてゐた。そうして此頃は怎んなものであるかといふに殆ど凡ての日本からの旅行者は、天壇、萬壽山を見物した通掛に、一度は屹度胡適先生にお目通を願ふのである。そうしてそれが管に、日本人のみには非ずして、毛唐人も矢張そうである。それかあらぬか、この頃では胡適さん、大概の場合には「不在家」を決め込む。であるから、この有名なる先生に逢ひたい程の者は、以後、自分が日本なりアメリカで、餘程偉い大家であることを自ら證明するの勇氣が無ければ、引見は甚だ六ヶ敷うなつて來た。いやそれも無理はあるまい、そう／＼猫にも杓子にも面會してゐては勉強する時間も



あるまいから。

閑話休題。胡適著支那哲學史大綱の批判に移る。民國八年二月にその上巻が出て十一月には四版が出た。といふとそう洛陽の紙價を高からしめた程ではないが、今日の支那で、これ位賣れれば、哲學書として實に、破天荒の賣行なのである。それは「死線を越えて」が日本に於る賣行と、同等若しくはそれに似たる評判であるのである。只「死線を越えて」が「上巻」と書き入れてなかつたにも拘らず、中巻が出たり下巻が出そうであるに反して、支那哲學史大綱が上巻と銘を打つてゐるに拘らず、中巻も下巻も薩張出現せない。それに關して種々の風評がある。あの書き具合では、到底中世及び近代哲學史即ち中巻下巻が、書き綴れまい。よし書けるとしても、上巻程に奇抜な論評は能きまい、等といふものが、そんぢよそこらに、ちよい／＼あるやうだ。が然し、胡適先生の談に依ると、それは全く見當違ひであつて、既に草稿は出來上つてゐるのである。が、猶この上乍ら研究を續けて、折角出版するならば、自信あるものを、出したいのださうで、そのコピーを、自ら手に取つて見せて呉れた。人間は定評を得たり、名聲を高めたりすると、なか／＼念が要る譯である。然らば何れの日に、中、下三巻が完成せられるであらう！それを催促

するには、先生餘りに忙し過ぎる。努力して「努力」週刊も出さねばならず、時には白話詩を吟じて見ねばならず、政治運動の方も反つて最もインテレストである鹽梅、どうしてどうして、支那哲學史の書替へ所のことでないのである。

して見ると、彼は書齋裡に孜孜として、研究を深める純な學究ではないのである。野心滿々たる學者であると稱して、何等憚る所毫頭もないやうだ。

斯ういことを述べるのが、彼の名著「支那哲學史大綱」を批判することになるのか。といふにそれは案外必要なる批判の爲の説明であらねばならぬ。といふ譯は彼の著書の中に、躍如として斯の人物が、現れてゐるからである。

彼の支那哲學史は、彼の才氣に依つて書かれてゐるといつても差支あるまい。小さい時から學んだ支那思想を、コロンビア大學の西洋哲學の教室で、思ひ着いたものではあるまいか。老子の「無爲」を、Herbert Spencerの講義の時に思ひ出して北叟笑んだことであらう。

ノミナリズムを知つて、孔子を記憶から呼び起したり、Lodgeの教室で墨學を思當つたり、莊子をダヴィニズムと一所に考想したり色々痛快なる着想に、自ら驚いたであらう。彼の哲學史は、そ



の着想の妙を得てゐることに於て、古今獨歩である。すなはち、それは彼の才氣の爲したる偉大なる仕事であると思ふ。横文字流に、支那文學を改革したのが彼の「文學革命」。西洋流に支那思想を考へ直したのが、彼の支那哲學史ではあるまいか。

無論、そればかりではない、名著とせられるには、猶幾多の優れた點があるに相違ない。墨學の爲に、百四枚の頁數を用ひ、孔教の爲に五十四枚を當てゝゐる所に、異彩があると思ふ。孔教の支那に及ぼしたる影響を無視せむとし、無益と看做し、有害なりしとし、支那を毒せしものを孔教とする一箇の見地からして、彼が孔子を輕視すること、前人未言である。そうして支那民衆が、老墨に依つて、感化せられ來りし所を明かにせむとしてゐる。そこに此著の斯く名高くなりし所以がある。

陳獨秀に依る矯激なる孔教破壊の思想革命は、實は陳氏に學力が乏しかつたが爲めに、碩學康有爲と敵抗するには、餘りに見すばらしかつた。然る所を胡適は、その父祖傳來の漢學の實力に搗て加ふるに性來の才氣を以て、陳氏の爲に聲援を爲したのである。その聲援は、この支那哲學史に依つて、無限に爲されてゐる。

その他、彼の著は、攷證に於て、書方に於て決して凡なるものではないさうだ。だがそれは日本の漢學者に訊けば一番よく解らう。

## 七

胡適は曾て、留米中「無後主義」を提唱した。「無後主義」とは獨身主義のことで、子孫を拵えぬ論なのである。然るに彼はその阿母の臨終に、遺したる言に従つて、冬秀女史を娶つた。女史の名を江と稱して、一男一女を設けた。自由結婚に據らざりしに拘らず、大層仲が睦しくて、家庭極めて平和であると。胡適先生が子女を携へ夫婦袖をつらねて散歩せる時に、北大寄宿舎の窓から「無後主義已經改變了、有後、有兩個陀！」口さがなく亂聲が聞えるそうだ。

胡適さんは、今年取つて、卅二米國人等からは Boy 扱にされる年齢である。にも拘らず彼は已に文科長の席に坐り、「中國哲學史大綱」の著を有し、「胡適文存」四卷を上梓し、「嘗試集」詩集を有してゐる。もう、出來上つてゐるのである。卅二にしてこれ丈けに擔がれてゐたならば、末長い後半生を怎ういふ風に努力して、その名望を維持して行くであらう。他事でなく甚だ心配してゐる者があらうから、序に彼の前に開かれつゝある道を書いて見る。



無後主義がほんの沈黙、おどけ話であつた如くに彼には、これといふ固定したるイズムが無い何だつて構はぬ、それが價值あることであるならば、それはいいことなのである。そこに彼の哲學がある。それを彼は實際主義といつてゐる、I am a pragmatist 彼はそう標榜することに依つて、聯邦自治運動にも賛成するし、社會主義をもアツプレシエイト出来るし、あらゆる運動に参加する人間と成つてゐる。

一體、支那の哲學者は、純な學究として思想界に立籠つて、自らの分野を狭めるものではない孔子の如きはいふを待たず、朱熹でも、近くは康伯尼先生でも、思想あらば必ずそれを天下の檜舞臺に應用して、自ら采配を振つて見たいものらしい、書齋に閑ぢ籠れる場合は、未だ名を得ざる時か、そうでなければ失意に陥ちたる折である、胡子またその例に洩れずして、今や將に、書齋より街頭に、飛出さんとする傾向を、多分に有してゐる、わけて安徽人に在つては、政治に志すもの極めて多いのである。

週刊「努力」といふ雑誌が出た。この小雑誌は靜かなる池に、小石を投じたる如く、波浪は小さけれども、池一ぱいに起させた。といふのは次のやうな譯である。北大學生教授間に「不談政治」の

主義が、こゝ二三年流行してゐたのである曾ては時局を慷慨して、五四運動——排日運動又は文  
化運動——を起したのであるが、餘りに政治が亂七八糟であるので、これを口にするすら馬鹿ら  
しく、癢に觸るといふので、寧ろ「不談政治主義」を唱へて政治忌避を流行させたのである。老墨  
の思想に興味を持出したる支那青年として、この傾向あるは不思議なことではない、搗て、加へ  
て現在の政府が餘りに腐敗してゐるのであるから、青年の理想から甚だ遠いものになつて仕舞つ  
た。然るに胡適は今春週刊「努力」を出して、「不談政治則止……我出ですんば蒼生を如何せん」と  
ばかりに打出たのである。蔡元培、王寵惠、高一涵その他十三名の學者を叫合して、「好政府」  
主義なるものを提出した、林長民も之に参加して、民權運動を生み、今や彼は政治家として運命  
を開拓せむとしてゐる。「努力」は薄べらな一枚二錢の四頁雑誌である。けれどもその讀者は、四  
川の奥からも、雲南の端からも、吉林の遠きより陸續購買するといふ狀況であつて、氣のきいた  
雑誌である。

胡適はアメリカの現在を、目當てに支那改造を企つるものゝ如く聯邦自治を稱し、裁兵、民權  
を高張してゐる、彼が曾て、董康を稱讃したる論文を記憶する。當時董康は、大理院長の職權に



依頼して、財政總長張孤を彈劾し侃々諤々の言を吐き、支那としては珍らしい行動を爲した。この大彈劾は倫敦タイムズにすら、大書報道せられた程であつた、にもかゝはらず支那言論界は之を、殆ど冷笑して黙殺せむとした、董康が財政總長に推さるゝや、曹汝霖の宏壯なる新築したての邸宅を封鎖し、廣大なる陸宗輿の屋敷に、封印を貼り着けたのである。官界の冗員を淘汰して革新を期した。これをしも新聞界は冷笑して新聞社の受けたる從來の補助の中止せられたるが故に、大に之を罵詈雑言することを忘れなかつた。獨り胡適のみは「努力」に依つて董康を稱嘆して止まなかつた。

その時に「晨報」の如きは、胡適を嘲笑して、文學、哲學に關しては、胡適を信用するけれども政治問題に在つては、些の敬意をすら捧げることが出来ぬと言出した。そうして筆勢自ら「好政府主義の宣言」に論及して、政治に關する門外漢なる胡適達の好政府主義は極めて粗莽なるものであるが、あれならば多分、學者も、法律家も、醫師も、それから畫家も、理髮師も悉く賛成するであらうと、揶揄一番皮肉つた。董康は裁判官として適任であるかも知れんが、財政總長としては全くお門違ひである、その如く胡適は文學者、哲學者であらうが、政治家ではない、政治等

はからきし解らんやうだ等と嘲笑したのである。

胡適は曾て、政治學をコロネル大學でやつたこともある、けれども彼は決して「我は政治に關しても、粗莽ではないと言ひ出さなかつた。寧ろ粗莽者であることを言明して、現代は粗莽者の政治談を要求してゐる、デモクラシイの政治とは即ち、粗莽者の政治なのである。政治の民衆化とは、即ち畫家にも、理髮師にも、醫師にも政治權を與へることなのであると、喝破したのである。

成程、居酒屋のおやぢのエベルトは大統領になるし、プロフェツサー、ウイルソンは同時に大ステーツマンであつたし、詩人ダヌンチオは伊太利最初の大統領を呼稱する。馬賊出身で、東三省王は勤まる世の中、胡適たるものが、幾ら粗莽者であらうとも、支那切つてのステーツマンになれぬ譯がどこにある。

兎も角も、胡適は週刊「努力」の發刊を以て、新しいスタートを切つた、刮目して彼の前に展開して行く新途を見るべきである。



彼の人物を月旦して、此稿を終るとせう。彼を齒の浮くやうな人間であるかの如く、日本では考へてゐるものがある。がそれは見當違ひの暴評である。アメリカ歸りではあるが、そうおちよこちよいではない。無論リベラルな態度を採る人だが、ぢつくりした落着いた人物であることは確だ。

才氣煥發の人である。伶俐なる人であるからといふて、徳の人に非ずと謂ふは餘りに、可愛そうである。殊に彼を蔡元培に比べて其人物、その人格を批判するは年齢を勘定に入れぬから起る誤謬である。彼はまた卅二のヤングボーイである。今からそう徳の人になつて出来上つて、溜るものか。人格として未成品である所に、前途があるのではあるまいか。

彼は活動家である。痼疾心臓病があるに拘らず、なか／＼の精力家である。その書屋は中外の書を以て埋まり、書物のくちやく／＼に亂されてゐる所よりすれば、餘程勉強する人の如く、而も書齋を時折飛出して、種々の運動に参加する、口八丁手八丁、足八丁合せて二十四丁の人物である、惜むらくは痼疾時に彼を襲うて、その活躍の自由を釘着にする。

彼は熱のある男である。彼には押しも押されもせぬ漢學の實力がある。彼は目から鼻につき通

る程に伶俐である。而もその漢學の實力と聰明なる資質にも増して、彼にある熱の方が、新支那にとつては何ぼか貴いものである。見よ新支那の何れの方面にも、この種の熱血男兒のあることを。社會主義者に陳獨秀、李大釗あり、新人裡に胡適・高一涵あり、聯邦自治論者に彭一湖、徐佛蘇あり、凡て新鋭なる熱血男兒である。

胡適の持合せてゐる武器は、英語の力と漢學の蘊蓄と、それから筆と辯であるのだが、英語は語學上手の支那人としては、そう目立つ方ではない。けれども以て讀むに足り談ずるに充分である。漢學は何といつても手に入つたもので、日本に持つて行つても決して何人にも遜色ないだろうだ。そのことは屢々日本の學者から聞いてゐる。筆は白話の元祖丈に、實に達者なもので白話詩もなか／＼甘い周作人に比べては稍趣なく、康白情に比しては天分少く、氷心女史に比ぶれば情操が乏しい、しかし白話詩を創唱し試みた所に、敬意を表すべきである。辯に於ては梁啓超の到底及ぶ所に非ず、王正廷よりもしつかりしてゐる。そうしてそのエキस्पレーションにゼスチユアーに青年を、チャームするものがある。

さて、彼のことを排日家として考へてゐる者が多いから、このことに就ても一言なきを得な



い。彼は決して排日家に非ず、されどまた到底親日家たるを得ぬ男である。日本のアグレッシブ  
ブリシイに對しては、猛然として抗争せむとし日本人とは親密に交際せむと欲してゐる。近來日  
本人にして彼の知人たるもの甚だ多い。彼またその日本人の何人たるかを知つてゐる。

今度の王寵惠内閣に、教育次長の椅子が彼の爲に振當てられたさうである。教育總長ならば兎  
も角次長たるには、餘りに人物が偉ら過ぎる。遠からず總長として入閣することもあらう、そう  
して梁啓超第二世たるが如く、學者思想家評論家として立つと同時に、政客として活躍すること  
であらう。

この稿を終るに當つて、暴評を謝し同時にその健闘を祈つて止まぬ。胡君適之！我等は君の前  
途の如何は、貴邦の運命に關する所多きを信する、勿論、慾を言へば、寧ろ我等は支那學の爲に  
君が書齋裡の活動を希ひ、中國哲學史の完成を囑望するの願がないではない、今日の如き支那に  
は政客として、一人の君を有するよりも、碩學としての一胡適を待つこと甚だ多きものがある。  
けれども、君としては書齋裡に籠居するには、餘り熱があり過ぎる、また爾來支那哲學者思想家  
の軌道は自己の主張を天下に行つて見る所に在る。されば我等は必ずしも、君の書齋より街道に

大學より衙門に出づることを難するものではない、まあやつて見られるがよい。そうしてまた不  
幸にして世に容れられず孔丘の如く失意の時が來るならば、その時こそ勉強著述せらるゝがよ  
う。

胡適之！「何處へ行く」行くところに行かせよ。我等は支那青年と共に、刮目して君の前途を凝  
視し、期待する所極めて多い。自重せられよ。



## 周 三 人

周三人！聞かぬ名だなあ！

周三人といつたは、周樹人、周作人、周建人と一括して呼んだに外ならぬ。三人揃ひも揃つて皆支那新人である。盲人詩人エロシエンコは周樹人を支那創家の第一人者であると推稱した。私もさう思ふものゝ一人である。上海の文士青社の面々の誰もが、聊齋の出来損をだらしなく書きなぐつてゐる間に、ひとり創作らしいものを發表してゐるものは、實に周樹人である。白話詩人として、外國文學の紹介として周作人は、已に認められてゐる。評論家としてこの頃雑誌に、其名を載するは、周建人である。この三人は一つ腹から生れ出でたる本當の兄弟である。この場合譯者は有島武郎、有島生馬、里見弴といふ人達を思ひ出すであらう。樹、作、建みな文字を異にするけれども、意味は殆ど同じである。人を樹て、人を作り、人を建つ、何れ周三人と一括總稱するに都合よきお名前だ。

—

周樹人はその文名を、魯迅と稱する。教育部——文部省の文書課長の職を奉ずる、お役人である。「北大」と「師範大學」に支那小説史の講座を持つてゐる。日本では仙臺の中學から、千葉の醫學に學んだ。醫者であるべき筈の彼が、脈搏一つ握り見たことがない。さうして方角違ひの文學に反つて造詣が深い。鷗外と柰太郎、世にもその例珍しからずと言ふべしだが、魯迅もまた支那に於けるその一人である。

まだ四十二といふに、どちらかといへば老けて見え、神経質らしく顔に皺寄せて物言へば、山羊程の鬚髯が上下に振ひ動く。その創作に「孔之已」といふのがあつた。「新青年」第六卷第四號に載つた一九一八年冬の作である。ある田舎町に孔之已といふ男があつた。毎日町の居酒屋の店頭立つ。二錢、一錢のお金を手にして酒を求めぬ。店先の石に腰かけて、僅の酒を飲んで嘗めて歸る。孔之已は大層經學に通じてゐて、文章其儘の言葉で、物を言つたりする。それが、たゞぶつ／＼口中に音してゐる丈で、薩張譯がわからんので、聞く者が皆嗤ふのであつた。孔之已は何度も科學の試験を受けたのであるがいつも、失望ばかりして居らなくてはならなかつた。孔之已は町の者に馬鹿にされても、二錢一錢を獲て、酒にありつかうと欲した。此頃孔之已の顔を居酒屋の前



に見受けぬと思つてゐたら、彼は何かを盗むところを見つけられて、其細い足を折られて仕舞うたのである。或日地を葡ふやうにして、孔之已が例の居酒屋の店頭に現れた。さうして何文かのお酒と漬物をもらつて、うれしさうに酒を嘗めてゐた。

魯迅はいつもかも、支那の古い習慣と風俗を味喰糞に悪口つく癖がある、この孔之已もまた科學制の生んだ寂しい犠牲者を、テイマに取扱つて居る。作全體に人間の投げ得る暗影を、最も深い黒さで表現してゐる。心理描寫を手輕にやつてのけて、表現に細い注意を拂つてゐる、彼の創作に現はれて來る人生は、何時もかも、呪はれてゐる。しかし其深酷な惱ましい人生は、必ず何かの問題を解決しないである犠牲から生じてゐる。のび／＼と明るみに芽ぐむ草は一本もない、また苦しんでゐるとしても、開けゆく路を見出した人生ならば、まだしも息がつける。けれども魯迅の人生は、暗い、ほんとうに暗い人生の描寫である。

魯迅自らが、人生問題に悩んでゐるのではなからうか。寂寥を何等か體驗してゐるのではあるまいか。あの光明の微塵程もない創作を爲すからには、「孔之已」の外に「故郷」「白光」がある。

## 二

周作人はまた、靜かなる心の所有者である。北大と燕京大學の教授である。仲密といふ名稱で晨報に、自己的園地といふ見出しで、よく雜感を書いてゐる、いつかどこかで稻葉君山がいつてゐた。胡適の白話詩は詞餘から來たものであるから、面白いけれども、他の白話詩人は皆駄目である。白話詩は西洋詩文の影響だといふ人があるが、それは謬見であつて、あれは詞餘から來たものである——と君山の考へさうなことである。試みに胡適に聞いて見ると、矢張西洋詩からの思ひつきであつて、コルネル大學でブローニングの詩を愛誦してゐた頃、考へ着いたものであるさうな。曾てブローニングがロンドンの町を散歩してゐると、ブローニング詩集研究會といふ廣告が出てゐた。ブローニングは一寸した好奇心にそゝられて、研究會の會場に入つて行つた。さうして一番後の椅子の片端に腰掛けて、ちつと聞いてゐた。すると一青年がブローニングの詩に就いて、研究を發表した。その語聲の熱してゐるのに少からず驚き且つ自分の詩を斯くまでに愛誦して呉れる者があるかを知つて喜んだ。

ところがブローニングはその青年の解説なるものが自分の詩意と餘りに違つてゐるので、自ら立つて一應辯明することにした。ところが、その青年のいふには、あなたのやうな平凡なる意



味で、我がプローニングが詠じさうな筈がない。とえらい見幕である。そこでプローニングも我こそプローニング也と名乗ることも能はず、こそそと出て行つたさうである。稻葉君山もまた胡適の白話詩を胡適自らの想以上に、考へ過ぎたるものである。さうして胡適以外の白話詩人を世に浮ばれぬ様にけなしつけて仕舞うた。

胡適の白話詩の數ある中で、古い詩、外國の詩を譯したものに讀むべきものが多い。けれども、その創作は賀川豊彦の詩のやうなものだ。あれは詩の中でも才詩——才子の作る詩を才詩とは今より世に謂はるべし——といふものであつて、詩趣といふものが殆どない、賀川豊彦の詩やロシア、プロレタリアートの詩には熱がある。胡適の詩もそれがある。

詩としては康白情、劉半農の詩の方が價值あらう。この二人は詩人の素質を多分に持つてゐる。周作人もまたなか／＼得難い詩を持つてゐる。數多く作らぬ。けれども熾烈なるヒュマンの欲求に燃えたる詩を持つてゐる。「白樺」に出る詩に似てゐる。一體、周作人は高雅な、靜かなる心の持主である。

周作人は海軍の學生であつたのだが日本に行つてから、當時に日本に在つて文學に志し章炳麟

に就いて勉強した、立教大學で英文學をやつたり日本文學を研究したりして、歸つて來た。妻君は日本人で、羽太信子。睦しいホームを持つてゐる。一男二女、貴公子のやうな彼等は白兔を飼つたり家鴨を養つたりして、魯迅エロシエンコ、それからお父さん達に創作種を提供してゐる。

——「白い兔と黒い猫」これは魯迅の小説に出て來る。家鴨の子と鶏の戀はエロシエンコの甘い短いものに出て來る。

書き忘れた。ワシリイエロシエンコは、この家の食客で、彼の族に上つた後には、部屋の隅所にギターのおびたものが一つ、長靴が一足淋しさうに遺されてゐる。もう十月になつた！何時になつたら、あの女のやうな甘い笑聲がこの部屋の窓から洩れることであらう。

周建人のことは、よく知らぬ。知らぬから書かぬ。しらべてまでも書く氣がせぬ。が、何でもダーウインの何とかの何とかといつたやうな、又奴隸性と群衆性とかいふ論文を書いたり、それから婦人問題を取扱つた論文を綴つたりして、ペンで飯を食つてゐる人であることだけは聞いてゐる。

一には周樹人、二には周作人、三には周建人、かういふ具合に書く心筆であつたのであるが、三には右述べたやうな適當なる材料を有せぬ。そこで、もう少し周作人を紹介して埋草とする。



周作人が日本人の奥さんを有するからつて、さう日本最良ではない。だからといつて排日屋でもない。凡そ日本人を妻とする人には二種ある。親日も親日、無茶苦茶に日本最良の人もある。また排日と來たら、夫婦諸共日本を滅茶苦茶に呪咀する人もある。前者はもう日本と縁組してゐるのであるから、損得勘定の外に、親日者として、相應なる迫害を甘受すべく諦めてゐる人である。後者はあれは日本人を女房とするけれども、他の者よりか何ぼか猛烈に排日しよると言つて貰ひ度さに、熱心に排日行動を採る。さうしてその何れもが、日本人であるが爲に、支那であるが爲に雙方で惱んでゐる。

然るに周作人のホームは、これ等の二者に見ぬものが在る。暗い影が映つて居らぬ。わたくし達はそれを珍らしいことだと思つてゐた。この頃漸く、その譯が解つたやうな氣がする。それは周作人といふ人が、世界人であるからではあるまいか。

曾て高一涵は、武者小路のいふことならば支那人と雖も、そのまゝ疑はないで聞く、周作人のいふ言葉ならば、日本人も口先の巧言とは思ふまいと言つた。本當にさうかも知れん。周作人の頭の中には、國とか何とかいふ觀念は更らにあるまい。

エスベラントの會を作つてゐること、西洋文學と日本文學の講座を持つてゐる。日本のものは今志賀直哉の暗夜行路を讀ませてゐるさうな。そのうちに自らも、何か書けさうだと。因に兄は四十二、仲は三十八、弟は三十四、已に官吏だつた父は亡く、母と共に北京西城の古い大きな家に住んでゐる。

一つ周作人の詩を紹介して置かう。

#### 砲兵工廠罷工

彼等は彼の爲に鐵砲を造り

彼は彼等に御飯を喰はせ

鐵砲も十分に拵へた

米も随分値上つた

「もう少し下さいまし」

「……………」



「もう少し下さいまし」

米も随分値上がった

私達は御飯が喰へなくなつた

それであなたの爲に鐵砲が造れなくなつた」

鐵砲は十分に造つた

工廠の汽罐に火が消えた

職工の竈にも煙が絶えた

鐵砲を持つ人が出て來た

鐵砲を造る人が收監された

## 陳 獨 秀

### 一 政治革命

支那の革命は軍人の手に成つたと言ふ人がある。成程一理ある觀察である。黎元洪、唐繼堯、蔡鍔、柏文蔚等何れも軍人ならざるはない。北一輝氏支那革命外史の如きは孫文が革命に參與せざりしことを執拗に記述して居る。別にまた支那の革命は志士の手に成つたと言ふ人がある。無論これにも一理あると思ふ。黄興、孫文、宋教仁等悉く軍人ではない。我等は軍人、志士共に民國を持來したものであると考へる。軍人を革命の主勳と爲すものは、幾ら藻掻いても實力を握る軍人が呼應せざれば、革命は成り難いと言ふ見地に立つ。革命の功績を志士の名譽に歸するものは、實力を握る軍人を動かし、革命の義を起さしむる丈けの風氣を、中國に漲らせたものが志士多年の運動にあると見るのである。我等は何れを主動者と爲すべきか、曾て考へて見たことがない。何れも同等の主動者であると思考せるが故である。思ふに兩者の關係は頭と手足の關係であ



る。手足の爲せる所を頭は知らぬといふことは出来ぬ。手足の行へることも頭に名譽が與へられぬ譯はない。手足と頭兩者を離して考へられぬではないか。

實力を握る軍人が、革命の志士を尻押す時に、支那の革命運動は秘密結社から、公然結社になる。公然結社といふ熟語はあるまいが、つまり南方政府の如きが一例である。で、軍人は只尻押せばよいのである。自分は君主でも共和でも何れでもよい。何れかに跟いて、周囲の情勢と自己の便宜に依つて、成るべく賢く判断して、地位を堅めて行かうといふのが軍人である。革命志士の方では出来るだけ革命思想を、所謂實力派、即ち軍人に注入して自分を尻押させやうと努力する。

陳獨秀は安徽都督柏文蔚の懐刀たりし革命志士である。柏文蔚が軍人として、第一革命の際南京に兵を擧げ、第二革命に際しては黃興軍に呼應し、民國五年には討袁を計劃せる時に、陳獨秀は影の形に添ふ如くに附纏ふて居つた。民國元年四月當時安徽都督たりし柏文蔚は、黃興軍を援助せむ爲に、兵を正陽關に集中し、倪嗣冲と對峙したのであるが、大勢已に去つて、如何とも爲し難きを知つて、僅かに手兵一個大隊を率ゐる南京に潜入して、何海鳴と再擧を計りたるも議合はず、止むなく遂に日本に亡命した。柏文蔚が安徽都督たりし頃陳獨秀は安徽省教育長の職にあつ

た。柏文蔚が日本に亡命せるを聞いて、陳獨秀も東京に来つた。東京では早稲田大學の學籍を保ち乍ら「群益社」いふ書舗を開店して、留日學生を顧客となし商賣を行ふた。後年「新青年」といふ雜誌を發刊して、支那に「思想革命」を捲き起せる雜誌社が、やつぱり「群益社」と稱する上海の書舗である。いふまでもなく東京を引上げた後、書舗を上海に移したのである。

早稲田大學の學生と稱し、書舗群益社の掌櫃とは言ふものの、實は革命の同志を集めることが何よりもの仕事であつた。柏文蔚は南洋に到つて華僑を慫慂して、再擧の軍餉を籌劃する。陳獨秀は東京に留つて同志を得て、秘密結社を劃策した。軍人革命家柏文蔚に陳獨秀が附添ふて居つたことは未だ何人も探知せざりし所であらうが、これまた革命の主動を軍人にのみ歸する能はざる所以の一例ではあるまいか。

民國五年柏文蔚は烈威將軍に列せられ、陳獨秀も北京に招せられて、六年一月國立北京大學文科學長となつた。

## 二 思想革命



倫敦タイムスの特派員、ブランドの曰ふに、「革命は支那に何物を寄與せしか。前清の官吏、軍人と雖、民國のそれ等程に低劣ではない」と。陳獨秀もまた政治革命に全くのこと失望した。嘗にブランドや陳獨秀が失望せるのみならず、恐らく内外人の誰もが失望してゐるであらう。近來は支那共同管理論すら喧しくなつて來たではないか。支那共同管理論の論據は無論、支那悲觀にある。支那を絶望せるが故に共管論が起るのである。

がしかし陳獨秀は決して支那を悲觀して居らぬ。無論絶望して居らない。彼は政治革命に奔走せる經驗に基いて、支那改造を教育から始めやうと着眼したのである。如何に政治革命が成立しても、大多數の國民が文盲であつては、共和も民主もデモクラシーもなにもあつたものでない。幾ら革命政府が出來上つても、同じ人間が廟堂に立つ間は賄賂も賣國も何でも自由自在である。どうしても國民教育から改造せんければ駄目である。改革運動を徹底的に考へたる陳獨秀は、國立北京大學に立籠つて一方雜誌「新青年」を發刊して、進取的精神を宣傳し、他方文化運動を醗酵せしめたのである。

雜誌「新青年」は最初は、中學生程度の青年を讀者とする随分通俗的な雜誌に過ぎなかつた。時

々英文と對稱して掲載せる論文もあつた。然るに民國六年二月反孔教論を掲ぐるに至つて、鋒銳漸く鋭く且つ明になつて、全國の視線を集中せしむるに至つた。

その頃康有爲は總統及總理に請電して、孔教を國教と定め、憲法に尊孔の一條を挿入せむことを要請した。この請電を動機として、陳獨秀が反孔の宣言を發表したのである。漢の武帝が孔教を奉じて以來、孔教は帝王官僚に依つて支持せられ、帝王官僚は國民手懐けの「工具」として孔教を用ゐ、互助の關係を以て今日に至つた。無論其間曲學阿世の御用學者が取捨添削宜敷しく、都合悪き所はこれを除くなり、曲解附會するなりして、遂に孔教を御用教であるかの如くして仕舞ふたのである。然るに世已に共和民主の時代が到來せるに、猶も孔教を國教たらしめ、憲法を用ゐ、總統の命令に依つて、支持傳道せむといふが如きは、最も時代錯誤のことである。若しも孔教を國教とするならば、復辟は絶えざるべく、共和思想は發達し能はぬであらう。故に孔教を宗教視して、尊孔案を憲法起草會議に附するが如きは民國々民の恥辱である。

この反孔論は新青年誌上に數回に亘つて述べられた。國民の裡にも、殊に若き青年間に大に共鳴するものが現れ、至る處の師範學堂は孔廟を校庭より取除くに至り、所謂反孔運動が捲起され



たのである。

反孔教運動は思想革命とも謂はれて居る。一體支那の政治革命は民主思想が、君主政體に挑戦したるものでなければ、國民の自覺が舊制度を打破せむとて起つたものでもない。その證據に「排滿興漢」の旗印が最も有力なる標語であつたではないか。尊孔案といふが如き問題が起るのも、政治革命が民主思想に終始して居らなかつた何よりも證據である。されば陳獨秀が民主思想の普及を當先問題となし、先づ孔教を鎗玉に擧げ、反孔運動を起し、所謂思想革命を實現したる意義は、この意味に於て政治革命に比べて、優るとも劣らぬものではあるまいか。政治革命は眼に見ゆるが故に大事件であるかの如く做し、思想革命が只の思想運動に過ぎざるが故に、小事件であると思ふならば、それは大なる謬想である。政治革命こそ第一、第二、第三、第四……何回繰返へされたところで支那は依然として支那である。寧ろ新支那は思想革命より創生し、思想革命は新時代に出發點を與へるものであるかも知れぬ。

### 三 文化運動

民國八年四月それはまた、うす寒い春の日であつた。陳獨秀は「新世界」の最も高いところから、傳單を舊世界の街道にばら撒いた。「新世界」といふのはルナパーク、花屋敷に類する娛樂場のことである。しかし名前が「新世界」であるから面白い。「新世界」は五層樓の會館を有する。陳獨秀はその一番高いところから、傳單をばら撒いたのである。

新しい世界から撒かれたる宣傳文には、段琪瑞の攻撃やら、曹汝霖、陸宗輿等のことが細かく書いてあつた。當時は段琪瑞の天下であるから忽に、「新世界」は閑鎖され陳獨秀は捕縛された。陳獨秀は覺悟の上であつたらうが、新世界の女役者達はおまんまの種を失ひ、お氣毒であつたと謂はれてゐる。陳獨秀の捕縛は北大の學生を激昂せしめ、それが氣つけに五四運動、文化運動が捲起されたのである。

北大學生は巷間路傍に立つて演説したり、排軍閥の聲高らかに示威運動を開始した。排軍閥から排日運動になり、同年五月四日には、二千有餘の學生出動して、曹邸を襲撃し之に火を放ち、居合せたる章氏を毆打するに至つた。曹邸に煙り上れる焰は、支那全國に類焼して、排日は全國的大運動となつた。



間もなく陳獨秀は出獄して上海に至つた。牢獄より出でて見れば、排日運動は曾て見ぬ民衆運動となつて、全國青年は熱狂して居る。元來は軍閥打破、ミリタリズム排斥の思想運動であつた排日運動が、ボイコットとなり排外行動とまでなつてゐる。それには陳獨秀も驚かざるを得ない。何も日本が軍國主義の張本人でもなければ、資本帝國主義の本山でもない。そのところがよく解つて居る陳獨秀は、排日運動に對して木で鼻をかむ様な態度を取つた。陳獨秀と排日運動は火事と放火者との關係でありしにも拘らず、出獄後の陳獨秀は寧ろ、消防に手傳ふ鳶職の頭であつた。そうして排日に狂ふ耶蘇教徒に向つて、

「バイブルの何頁に排日をジャステファイする文句があるか」

等と減らず口を喋つて居る。出獄せる陳獨秀の腦裏には、已に愛國の熱情が冷え切つて、社會革命の翹望が漸く燃上つて居つたのである。

#### 四 反宗教運動

陳獨秀に限らず、蔡元培、吳稚暉、李石岑皆宗教が嫌ひである。胡適の如きは理解はあるが信

仰しない。陳獨秀に至つては常に攻撃して止まない。

「在我們中國、吃教的人多、可是信教的人很少」

と言つて居る。支那基督教徒を批評して、宗教を食つてるものは多いが、信するものは少い。謂ふ所のライスクリスチャンは多いが、本當の基督教者は稀れであると擲論して居るのである。

「排日運動に熱狂し、教會で排日熱禱會を開いて居る。基督教と排日そこに矛盾を感じないのであるか。聖書の何處に排日の教理が書いてあるか。耶蘇の提唱せる人類愛と日貨排斥とは怎ういふ關係にあるか」

陳獨秀は徹底せる思想に生きむとせるが故に、不徹底なる基督教會は揚足を取られる。民國十一年四月北京精華學校に於て、世界基督教學生大會が開かれ、ジョンモットを始め二十三個國の代表者が集合せる時に、突如として、北大に於て、反宗教運動が起り、續いて北京高等師範反宗教同盟、保定直隸高等師範全體學生反宗教團、長沙淋州中學校反宗教同盟會、大原反宗教學生同盟會、廣東反宗教同盟會、朝陽大學反宗教反基督教同盟會、南京反宗教學生同盟會其他が一勢に反對宣言を決議した。蔡元培、胡漢民、汪兆銘等と共に、陳獨秀も反宗教運動に賛成し、雜誌「郷



向導」に反宗教論を掲げた。

陳獨秀の反宗教理由は、(一)宗教は科學研究を阻害する。(二)宗教は社會革命に必要な争闘を罪惡と爲す。(三)宗教は強國の弱國に對する帝國主義の手先となる。(四)支那に於ける教會立諸學校が拙劣である。の四項であつた。北大教授周作人外七名が反宗教運動に反對して、信仰の自由を高唱したる時に、陳獨秀は反宗教の自由を主張して、揚足取の八ツ黨を以て論駁したものである。それにもせよ數多の反宗教論の裡で陳獨秀の議論が最も面白ろかつたやうである。

## 五 社會主義

孫文の率ゆる國民黨は南北を通じて、全國的に黨員を有し勢力を持つてゐる。支那は南北に分れてゐても、郵便局は南北統一されて居り、南船北馬旅行は自由自在である。恰もその如く、國民黨員は南北、到る處に散在して居られる。北大の教授であり乍ら、李大釗は國民黨の領袖たり得るのである。國民黨といつたからとて、日本の政黨とはまた趣を異にする。依然として興中會哥老會當事の秘密結社の風がある。

國民黨と一概にいつても、右翼と左翼は極めて極端であつて互に距離を有する。其最も左翼に在るものは陳獨秀、李大釗である。陳獨秀李大釗は依然たるマルキストである。マルキストにして猶且つ民黨の一員たり得る理由は、黨の歴史と孫逸仙の人格に在る。曾ては孫文の社會主義で満足でき、其麾下に集り得たる陳獨秀は、その後極端に左向せるに拘らず、依然として民黨の一員に止つて居る。引止て居る所に孫文の人格が働いて居るのである。

マルクスの思想、主義、學說の一點一角も疑はずして之を奉ぜるものは、廣い支那に於て陳獨秀と李大釗と二人であらう。尤も陳獨秀の息子は兄弟二人共サンジカリストであつて、今は佛蘭西に留學して居る。「支那官紳録」には陳獨秀を佛蘭西留學生としてあるが、あれは息子と取違つたものであらう。陳獨秀は早稻田大學の出したる支那に於ける共產主義の頭目である。日本が教育したからとて共產主義者にもならうでは無いか。公言報が彼を惡評して、彼は姉と妹二人を嫁つて居るとか何とか書立てたことがある。また勞農ロシアから一萬ばかり頂戴して、旨い物食つて一二年寝て暮したとも傳はつて居る。眞爲の如何は探偵でもなければ、陳君の張番してる譯でもないから、確答は出來ぬが、多分皆嘘であらう。自分の知れるところでは、眞劍なしかし柔和



なる、親切で親分肌の人物である。日本の堺枯川と似て居ると誰か言つて居つた。「獨秀文存」は彼の論文集で、「嚮導」は彼の週刊雜誌である。

## 李大釗

萬壽山——そこには西太后が住んだといふ夏の御殿がある——には行かんでもよいから、新人胡適に引合はして呉れといふ、日本からの旅行者が、ずいぶん多くなつて來た。忙しい旅行者が、名所見物を割愛してまでも、參詣を怠らない譯は、日本に歸つて新しい所を吹聴に及びたい心理にある。曰く新支那の曙光を見て來た。曰く支那は偶像破壞期に在る。曰く何といつたやうな土産話を、棗の甘漬やらひすゝやら、甘い栗と一緒に苦茶に廣げやうといふ計畫である。

恁ういふ旅行者の中には、角張つた文字を脳味噌の隅々までも詰込んだ漢學に、しつかり甲羅着けられてゐる先生もゐらつしやる。それ等の人々は、筆談を以てしても、この生意氣の反孔學者を、ぐうの音も出でぬ程に打のめして呉れむといふ元氣で、鐘鼓寺の住人胡適を訪問する。門をくぐり、さて堂に招ぜらる、その書屋は漢籍で所狭きまにかざられてゐる。日本からの漢學者先生、先づ列べられた古書の薰に陶醉する。狼籍とでも名状したきままでに机上に開かれた書物にすつかり魅せられた先生、初對面の挨拶を交す時にはもう反孔論の胡適のことにも忘れて



笑に入る。

我是平和主義者、不是革命主義也

これ丈け聞いた丈けで、もう胡適にうんとよい感情を抱いて仕舞ふ。造詣はなか／＼深い、實力は舌を卷かせる。人物はリフアイン、ゼントルマンである。最も穩健なる思想の所有者である。行きしなに抱いて行つた反感は、敬服に化して、来て見れば聞きしに優る富士の山——まあ安心した。世間で云ふ程に、危険思想家ではなかつた。彼は立派な漢學者であつた。一葉の寫眞と、中學哲學史一巻を贈呈せられるに至つては、胡適なる哉胡適なる哉である。

ところがだ、或る種の頭の所有者が、天壇見物に要する時間と、北京逗留日數と、宿料の形勢とを仔細に攻究して、遂にやつぱり胡適見物を思ひ切れなくて、鐘鼓寺胡同に行つたとする、或る種の頭の所有者であるから、無論支那古書の香りなんていふものは、てんから頭にありはしない。それから思想がプラグマチズム、政治が聯省自治論、文化主義、平和主義とはいやはやはしなかり——来て見れば聞きし程にもなし、富士の山。多分日本では胡適といへば、赤い旗でも鉢巻にして、躍りまくつてゐるとでも、噂してゐるのであらう。胡適はさういふ人物では全くない

彼は第二の梁啓超にあらずんば支那の賀川豊彦である。熱からず、冷たからざる水は、人之を吐き出す。温い胡適にあきたらぬ旅行者は寧ろ古き支那の天壇に至らざりしことを悔いて、つぶやくであらう。そのぶつ／＼いふ愚痴は、確に支那青年の胡適に抱く物足らぬ充たされぬ心持と同一である。

わたくし達はその愚痴を救ふ爲に、或る種の頭の所有者を李大釗の家に伴ふ。李大釗はそれ等の人々を大に満足せしめると謂ふ、若き支那青年達は、今や胡適を去つて李大釗に引着けられてゐる。

主義者李大釗號を守常といひ直隸省樂亭縣の人、韓愈を出した昌黎の近所である。北洋法政専門學校で六年間、勉強したのである、今井嘉幸、吉野作造は、彼の先生である。わけて今井嘉幸からは、直に教はり、天津時代の吉野作造からは講演に依つて、學んだそうである。

早稲田大學に三年居つて、社會學を安部磯雄に就て勉強した、その間に彼は社會主義者たらしざるを得ないと考へた。

今「北大」で唯物史觀、女子高等師範で女權運動史の講座を持つてゐる、そうして北京大學圖書



館主任を兼ねてゐたが最近辭して、校長秘書となり、北大を切り盛りしてゐる。「新青年」雜誌にはかなり前から、矯激なる筆致を以て、論文を書いてゐる。五年前から「少年中國」といふ纏まつた雜誌を出してゐる。

陳獨秀去つて後の、北大に李大釗ありとまで、言ひ囃やされてゐる。さうして北大から起る新運動には、いつもかも彼の名が其筆頭に書かれてゐる。今春起つた反宗教運動もまた、李大釗を中心としてゐる。彼自らは只學生連に擔がれたのであると稱してゐるが、本當は李大釗を中心としてゐるらしい。よしんば行動の中心は學生自らにあつたとしても、少くとも思想の中心は李大釗に在つた。

反宗教運動には二種の思想的系統があつた。一つは、宗教は科學の發達を阻害すといふに在つた。他は宗教はブルジョアの手先なりといふに在る。前者は北大教授李石曾に依つて代表され、後者は李大釗の主張であつた。支那の基督教會は、今のところまだブルジョアの信徒を有する程に發達して居らぬ。精々僅なるインテリゲンチヤの信徒を有する位の所である。而も在支宣教師は醫學の普及を計畫して、科學の輸入を手近い所から、開始してゐる、到る處廣智院を建て

、ライブラリイとミュージアムを兼ねたやうな内容で、特に科學的器具を展覽して、一般知識の普及に努めて居る。さればこそ甘肅のすつぽ谷に住める田舎者でも、時には蓄音機といふ魔法話の泉箱仕立を一覽し得るのだ。雲南の奥深く生ける蕃族のお婆さんですら、針金に火を點すとやら、動く活た畫やらを見て、地獄での話の種を拵へてから、あの世に旅立つことも出来るのである、支那に在つては基督教會は、科學の進歩を促してゐるのではあるまいか。

だが、よく考へて見ると、それ等の教會は對外資本主義のまがひもなき手先である。曾ては軍人に鐵砲持たせて先廻らせたる各國は。今やバイブル持つ宣教師を、支那に派遣して、目に見えぬ鋤で地ならしをやつてゐる。そこに對外的帝國主義のくさみがこびりついてゐる。それに對して、反對運動をおつ始めたは、實に李大釗である。

李大釗に——基督教會の後に外國の資本家が覗いてゐる。そう喝破せられて、外國宣教師達の女房連中は、若しか拳匪運動にならんか知ら、と震へ上る程に心臓の鼓動を高鳴らせた。——反基督教運動は全國に飛火したことはしたけれども各省から電報は手紙で書かれてあつた程に、運動資金が乏しかつた。新聞には山西省反基督教運動同盟連電とも書かれ河南省反基督教同盟電



とも報ぜられた。但しそれ等は督軍達が年から年中通電と電請を以て騒いでゐるのを真似たものである、その模倣は辛うじて、状袋の一端に、通電とか電請とか朱記して置く丈けに節約せられた。この貧しい運動は、それが貧しかつたことに依つても純なる學生自發の運動であつたことが解る。

李大釗には熱がある。勇氣もある。學生を引着ける魅力もある。陳獨秀に心友を見出してゐる。赤露との聯絡もある、この間ヨツフェを歓迎すべく骨折つたのも彼である、彼が已に一萬に達したる工人と主義者の先頭に立つのも、そう遠くはあるまい。

赤露よりのエンボイ。カラハンを援助すべく、輿論を喚起し、顧維鈞をしてソビエツトを承認すべく餘儀なくせしめた。露支交渉漸く成るに及んで、彼はその尻尻返へしに逮捕令を押つけられ、都落して、今は上海に在る彼の前途はまだ之からだ。三十三恰も齡を同じうする支那の佐野學である。

## 李石曾

### 一

「北大」に二李ありと謂はれてゐる。すなはち李大釗と李石曾である。何れも直隸の人にして、彼は樂亭縣、此は高陽縣である。何れも社會主義者にして、彼はマルキスト、此はサンジカリストである。何れも革命論者であつて、彼は經濟學を、此は生物學を勉強してゐる。何れも外國留學生にして、彼は日本、此は佛國に學んだ。何れも新支那の指導者にして、彼には熱があり、此には力がある。

### 二

李石曾の父李鴻藻は、前清の丞相であつて、彼の家は太史第である。父が清朝の大官であつたにも拘らず、彼は急進なる新思想を抱いて、共和思想の爲めに立たむと欲し、民主主義の爲めに命を投出さむと願つた。第一革命の後袁世凱は彼を迎へて、顯官たらしめむと欲した。梟雄袁項城も前清に寢返り打つた時に、丞相の子に知己を見出さむと欲したのであらう。李石曾は首を左



から右に振つて應じなかつた。巨金を與へて民主共和思想をオーソライズして貰はうと思つたけれども、李石曾は顧みむともせなかつた。

### 三

間も無く袁世凱が皇帝を稱した。怪傑は洪憲皇位の玉座に就いた。就いたものゝ心の内ではびくびく然たらざるを得なかつた。袁の女房は天を畏れて皇后の玉座に、よう即かうとしなかつた。その頃李石曾は爆烈弾を買込み青年志士を集め、袁世凱の體をこつば微塵に粉碎して呉れやうと謀つた。袁洪憲皇帝は鹵簿の平安を幾度か、脅かされて、李石曾の暗殺團を恐れた、袁がやうくも、爆烈弾の命中をのがれた日に、李石曾は袁皇帝から引見を強求せられた。

——暗殺團丈けは止めて貰ひ度いものだ——

——いゝえあなたが皇位を下る迄、わたくし共はやるんです。——

李石曾の眼は血走つてゐた。

### 四

その後李石曾はフランスに留學した、農業を研究し始めた。生物學に興味を抱いて、學問はそ

の方ばかりに、深入つた。

ふとしたことから、巴里で豆腐公司を始めて、盛んに賣つた。豆腐の賣れたことも、事實であるが、豆腐博士の名も佛人間に大層賣れ渡つた。彼の名は豆腐に依つて佛人間に知れてゐるさうだ。李石曾と呼ぶよりも豆腐博士といふのが、何ぼかよく通ずるさうである。學者の豆腐屋さん丈けに、色々と改良を加へ、西洋料理に合ふやうに、拵へたものであるから、非常な好評であつた。相當に儲かつたから、それが純利を以つて、留學生達の費用に振當てた。

### 五

豆腐屋の李石曾は、店へ豆腐を食ひに来る張繼、吳敬煊、汗精衛、蔡元培と共に、支那革命運動をやつた。豆腐公司に於ける青年志士が口角泡を飛ばす激論は、全く豆の勢であつたか、頗る當る可からざるものがあつたさうである。

この一團の青年は、常にフランス主義者と甚だ相接近した。わけて蔡元培、李石曾は主義者と最も近くなつてゐた、蔡は哲學から、李は科學から、社會問題に入つて行くのであつた。

李石曾はサンジカリストの連中の一味に加はつた。ペビュースは彼と相交はつて、同志をフア



イストに得たるを喜んだ。この間に彼は社會學の一通りを研究したのである。

## 六

蔡元培が北大の總長になつて、李石曾を巴里から迎へた。豆腐屋を他に委かせて、北大の生物學講座を擔任した。學者として今の支那に、全く得難い人であり、青年を魅する人物として今の北大に、殆んど他の追従を許さず、社會批評家として今の思想家に第一人者である。而も陳獨秀も及ばぬ革命主義者であるから恐ろしい。彼には膽力がある、陸建章が執務總務使をやつて反袁の志士を、こぐちから叩き切つた折にも、びくともせず、袁暗殺團を組織したのである。若き日から血を見ることを恐れぬ丈の鍛錬がしてある。

## 七

反基督教運動の頭目に、李石曾が名を出してゐる。反基督教運動は反宗教運動に成つたのであるが、之は三種の主義者、社會主義者、國家主義者、科學主義者に依つて主唱せられた。社會主義の見地からは、外國の資本家の手先たる基督教に反對するといふに在つた、國家主義者は帝國主義の假名たる對支文化政策を攻撃したのである、而して科學主義者は宗教は知識の發達を阻害すと

唱へた。

この科學主義者の議論こそ、李石曾その人の思想である。支那に基督教徒に睨まれてる學者が三人ある。蔡元培と陳獨秀、それから李石曾である、李石曾は學問の立場をはつきりして反對してゐる。

## 八

近來は彼は兎角、學究として行く傾向があつた。それが反宗教運動から、一轉して漸く社會運動者らしく燃えて來た。五四運動——その最も目立つた仕事は排日であるのだが、李石曾にはかかる國家主義の運動はびつたりせぬものであつた。文學革命はかなり喧しい問題であつたけれどもそれは李石曾には餘りに縁遠い運動であつた。

反宗教運動は無論、愛國者達の裡にも共鳴者を有した。けれども矢張社會的運動の傾向を帯びたる最初のムーブメントだつた。そこで李石曾の活躍する幕が切落された譯なのである。社會運動は果して、これから引つ切りなく起つたのである。此春から今秋にかけて幾つかの社會運動が起つた。産兒制限運動といひ婦人解放運動といひ、兵隊廢止運動といひ、雨後の筍と雖も恙うは



早くは行くまい。

九

サンガー夫人は日本で、口止めせられたそのほとばしりで以て、腹癒せと埋合せを支那で充分に仕遂げることができた。北大の公會堂で制産の義認論から始めて、ルーデサツクと椰子の油の使用に到るまで、精細に亘つて公開演説をやつたものである。満場の男女學生は嗚を沈めて謹聴したのである。無論早速應用すべき手合も早婚の支那學生のことゝて、過半の多數を占めてゐたに相違ない。そこで北大に制産運動なるものが生れた。一體支那ではこの頃いろんな運動が生れて困る。學生達はベースボールだの、フットボールといふ學生に緊要なる運動はしやうともせずわい／＼連中に擔がれ兎角運動ばかり生む。今年になつてからさつと之丈ある。已に贖路運動、裁兵運動、反宗教運動、反對反宗教運動、産兒制限運動、婦人運動、女子参政運動まるで運動會のプログラム見たやうだ。先づ此運動のあまり生れない、コントロール運動制限を考へ出さねばなるまい、といふことである。

馬鹿をいつてゐないで、そのバスコントロールの運動に於ても、李石曾は指導者であることを

書いて置かう。

10

婦人解放運動の有力なる援助者として、李石曾を數へねばならぬ。彼もまた忙しき哉である。然るに彼はそう、頑丈な肉體を持合せてゐない。陳獨秀の如くに幾度も、牢屋にぶち込まれて酷い目に逢ふ譯には行くまい。少しやり過ると西山に療養すべき弱い肺臓を持合せてゐる。であるから實際運動はやつぱり李守常に依つて爲されるであらう。日本は支那の思想界に全く疎い、色んな雑誌と新聞に嘘がどつさり書かれてゐる。李大釗、李石曾を穩和派に入れてゐる人もある。それさへ滑稽であるのに、「守常」は李石曾の號なりと書いてゐるものもある、中には「北大」の李石曾、李大釗、那守常は支那社會主義の何とかいつてゐたのも見受けた。誠にちゃんちゃら可笑しい限りである。「守常」は李大釗のことなのであることすら知らぬ。

支那のサンジカリストたる李石曾さん、幸に足下は豆腐の名人である。大に豆腐を食つて、健康を養ひ、來らむとする第四革命の爲めに自重あれ。



## 江 亢 虎

### 一 日支の關係を論ず

「日本と支那は兄弟である。兄弟とはいへ、既に國家を爲せる以上、經濟と政治に於て兩國は利害を異にする。それは止むを得ないことである。けれども文化といふ一點から考ふれば兩國は依然として兄弟である。世には骨肉互に資産を争ふことが少くない。かゝる場合これを法廷に曝らして黑白を決するよりも寧ろこれを一堂に集めて、祖先の位牌の前に立たせるがよい。然らば自ら兄であり、弟たることを思起して、再び和解することが能きる。日支が或は政治的にまたは經濟的に相反目して居ても、東亞の文化といふ位牌の前には、雙方自ら血の通ふものあることを悟るであらう。」

自分は服部博士とも舊知の間である。日本が對支文化事業を行ふ。政治と經濟に於て論争しても東亞の文化といふ點に共通を見出して、初めて兩國が親善の道を拓くべきである。」

彼は巧みな日本語で以て、斯く言つた。訊けば二十何年振に用ゐる日本語であるそな。道に幼少の時分留日して居つたのであるから、發音といひ口調といひ甚だ手に入つたものである。彼は江西の人であるが、北京に官吏たりし父に従つて幼少から北京に育つたものであるから、北京語も耳觸り悪くない位西訛は殆んど無い。

### 二 女子教育の先驅

東京で高等師範に傍聽してゐた關係上、北京に歸つて彼は教育者として發足した、宣統三十一年の頃彼は未だ齡廿歳に達したばかりであつたが、北京に女學校の無いのを遺憾と爲し女學傳習所を設けた。女教師養成を目的と爲した。間もなく女學校四校を開くに至つた。恰も五年間これを經營したのであるが洋行しやうと考へて、これを「學部」に引渡そうと願出でた元來授業料の外は、寄附金に依つて經營し來つたものであるが學部は此の如き出來合ひ現成的の學校を喜んだのである。それが今猶繼續せられて、一つは高等女學校として、一つは女子高等師範と改められてゐる。



當時の出来事を今より考ふれば笑話に過ぎない出来事があつた。學校は北京の丞相胡同にあつたもので、そこには戴鴻慈邸宅があつた。彼は欽差出洋考查憲政五大臣の一人であつて、彼自ら立憲を提唱した流行兒であつた。江亢虎の學校は學生益々増して學校が狹隘を感ずることになつた。すると戴は警察に運動してそれを許可せない様にして仕舞ふた。けれども江亢虎は警察の規則を楯に大に争ふた。すると戴は威迫よりも利誘にありと考へたか、一夕江を請じて酒宴を開いて、二階の風水によろしからぬことを懇々説いた。

「學校には風水の迷信等ありませんよ」

江の空とぼけに戴も如何ともすることができなかつた、が反つて江亢虎は隣家の戴鴻慈の娘達を勧めて學生となした。以後は戴鴻慈も二階建設に大賛成であつた。

そのことはそれで済んだのであるが、江西に水災のあつた年——民國一年である。彼は賑災募金を企て、北京琉璃廠々甸で、女學慈善會を開いた。何しろ廠甸は北京の人々に熟知せられてる所であり、三萬の人々を容れることが能きる。其處で女學生が演説をする、遊藝、芝居、唱歌、賣店を開くといふのであるから、三日間は大入であつた、そこで後三日間日延して人氣を集め一

萬餘元を得、之を江西に送つたのである。

女學生の父兄等には保守的な頭腦の所有者もあつたこととて風俗破壊の罪名で以て「學部」から恠ういふ命令が出た。

「女學慈善會意雖、但風氣初開、諸多窒礙、業經臣部尅期禁上」

而もその上に女學校教育者は五十歳以上の男子でないと、従事することができないといふ命令も出た。江亢虎は當時僅に二十五歳であつたので、廿五年間女學校教育員たることを禁止せられた譯である。そこで彼はその間海外に遊學せむと欲して上海に去つた。

### 三 社會黨解散

話は前後するが、彼は一方女子教育を創始すると同時に、他方北京大學で社會學を講じた。その時齡僅十八歳。驚くべき早成の人である。

民國元年社會黨を組織して、五十萬の同志を天下に得た。民國二年袁世凱は此社會黨を解散せしめ、袁世凱は彼を捕へんと欲した。彼は直に漢口に逃れたのであるが、袁は黎元洪に命じて彼



を捕縛せしめ、牢獄に幽閉せしめたのである。浙江巡撫增韞が彼を「洪水猛獸であるから今にして殺さずんば」云々と電奏したので袁は黎に命じて彼を刑せむことを強ひた。が黎は江の張繼等革命の黨の好きを知つて彼を竊に上海に逃れしめた。

「洪水猛獸とよくもいつた。江は洪水、亢虎は猛獸である。」江亢虎もこの稱を喜んで、「洪水集」といふ社會主義の論文を著して居る。

彼は上海から北米に亡命したのであるが、同志陳翼龍は捕へられて刑死した。

米國に渡つてからの彼は、加洲大學の講師として、支那の文學を米人學生に紹介したり華府の圖書館の東亞部の司令官をしたり、種々の事をやつて渡世して來た。その間七年に亘つて、加洲大學からはドクトルオフヒイロソフイの學位をうけた。民國十一年一寸歸朝して。未だ席の温るざる裡に歐露に向ひ勞農政治を視察し一年間、調査研究した。勞農に公使として駐劄するといふ噂の立つたのはその頃のことである。また實際其の交渉もあつたが、彼は教育に興味をより多く持てる爲めに、再び歸朝して各地に遊説、講演し歩いてる。

彼は長く白人の間に生活したるが故に、白人の短長をよく知つて居る。そうして珍らしく愛國者は長く白人の間に燃えてゐる。支那の社會主義の誰もが愛國傾向を有する如く彼も恐ろしく愛國者である。

「孫文さんは今ロシアの力を借りてゐます。けれども外國の力を借りることは危いです。殊に成功した時に面白くありません段祺瑞の如くに失敗すれば何のこともありませんがね」と彼は常にかういふてゐる。そうかといふて彼はロシアを一から十まで讚美しては居ない。そうして支那を頭から全くは忘れ得ないのである。そこに彼の生命があり、彼の青年を魅する力があるのであらう。

#### 四 南方大學の建設

彼がまだ留米して居る頃、上海の有志は南方大學の設立を計劃して、彼を遙に推して校長たらしむることを促した。彼は僅々七年間に本國の形勢が斯くまでに推移しやうとは思はなかつた。待てば海路の何とか、彼は各所に迎られてその主義と學問とを推稱せられた。

民國十一年秋十月彼は校長に就任し、傍ら北京南京漢口江西各地に講演旅行をして、學生の募集



を爲した。集れる學生男女六百有餘、忽にして大學が成立つた。而して今春から北京大學分校を設けむとて、既に殷教務主任を任命して創立事務所を西交民巷に開いて居る。其の學校には「特別預約」といふものがある。特別預約等といふと何んだか日本語では手附でも打つことのやうに解せられるが實は「特別規約」のことなのであるそれに

本校係屬私立全體學費維持凡不按定章要求免費者請勿來學とある。學校を學生の授業料のみに依つて維持せむと欲するまた

本校尊重國學通用國語而教授料學多通用英文凡醉心歐風鄙棄國粹或不通英文、又不願補習者除專修科外請勿來學、とあるから、國粹を重んじ同時に科學の研究を怠らぬと謂ふのである。

本校財政公開校事概由行政會議通過學生個人皆建議學生代表並可與聞惟決議執行權在校長凡性喜干涉校事及參預外事者請勿來學

これによると學校を學生の會議に依らしめてゐる、一寸面白い制度である。授業料は專修料は年に四十弗預料は參拾弗である。食料四拾五弗、體育費貳弗、圖書館貳弗、醫學費一弗、講義費參弗である、教員は三十も從事して居る。言ふまでもなく此學校の特長は社會科學にあつて、

校長江亢虎が示告の目的である。

## 五 彼の主義學說

彼の學說は「新民主主義新社會主義」といふ滅法外長たらしいものである。その詳細は北京週報百貳號に紹介して置いたから此處には概評のみする彼の社會主義の共產主義と異る點は財産の私有を許す點にある。彼の學說は生産的土産的物事は悉く之を公有物となし、非土産的物事を私有物と看做すのである。故に衣服とか家具、書物、裝飾品その他幾らでも私有品を殖やすことが出来る。けれども苟も機械とか工場とか田畑の如きものは私有するを許さない謂はばセミニンミニズムである。彼の社會主義の特色は、勞働賃銀を一定せないのみならず、之を承認するのである。或者は二圓或者は五十錢の賃銀を貰ふそれは自由競争に委せる。故に勤勉なるものはより多くを得てより幸福なる生活に入ることが出来る、然らば人間の平等をどう考へるかと云ふに、それは只人間の出發を平等にして、人間の自由競争に係りて、差別の生活に生かしめるに在る。生産的物事が悉く公有であるから、財産家といふても非生産的物品の若干を蓄ふるに過ぎ



ぬ。彼に依ると教育は國民の義務でなくして國家は人間をその希望と才能に應じて教育する義務を有する。

官吏は人民參與に依つて任選せられる参政試験を通過すれば何人も官吏になれる。議員は職業代議であつて、大工は大工仲間から議員を選ぶ。

もう一つ興味あることは、彼の學說に依ると凡ての私有財産はその所有者の死と共に公有財産に入ることである。

猶詳しいことは北京週報百二號を参照して頂かう。

## 六 人物と風

彼の顔は大きく頭は小さい。體は大きくて足は小さい。膽は大きく心は小さい。その二十貫の體態は貫目ある紳士として十分である。社會主義者といへばナアバスな神経病みの瘠せぎすの男が、疝筋をビクつかせてゐるようなものである。が至つて快活なそして柔和な人物である。人に接して全くオープンハートで、氣軽く應接して呉れて氣持のよい人物である。やつぱりヤンキーの

あの氣質は彼に浸み込んでゐる。

生來の革命兒である丈けに、死線を屢々往來して居る。度胸もある。話に聞いて居るとどんな奇抜な過激な、亂暴な心の持主かと思はれるが、逢つて見ると案外である。氣持のよいそうしてをとない人間である。

彼の特長は頭のよい所にある。特に語學が出来る。日英佛露獨なんでも一通りはやる。彼の妻君廬岫雲女史と來ては、英語の外喋れぬ。幼少からアメリカで育つたからである。講演の如きは夫亢虎の通譯によつてゐる。女史はモンテソリーの教育を研究して、北京でその育兒園を建設して居る。

江亢虎の現今に於ける特長は思想の宣傳と教育にあつて、實力を軍隊その他に持たないところにある。

孫文の如く一方に覇を稱して居ることは、善し悪るしであつて、實力を有するが故に全國に亘る宣傳を爲し能はない。江亢虎は些の實力を有せざれば反つて、各自に聘せられて自由自在に宣傳することが能きる。



それから今一つの特長は、子弟の養成に従事してゐることである。即ち將來に大に成さむとする彼には、必らずしも迂路とは謂はれまい。彼は未だ四十一歳の壯者である。之からである。強ひて彼の短所を求むれば彼が、自家の主義を立て、孫文に行かず、陳獨秀に來らず、然らばとて李大釗とも手をにぎれず、胡適とも共力できぬところにある彼は學者であらう。けれどもそう早く自家の説自家の主義を把持して動かないでもよからう。自家の學說をちやんと立て、それに籠るのは、獨り彼のみならず支那學者の通弊である。

## 孫文

孫文！成程今更ら書くべく餘に、ポピュラーな名前だ。けれども案外、人は彼を知らないかも知れぬ。往々にして誰でも知つてゐる筈のことを誰も知らぬことがある。今更孫文の何人たるかを問ふ譯にも行かず、知つた顔をして知らないで、孫文を論じ孫文を駁せる支那通もあらう。

「孫文つてどんな人？」

令夫人に詰問せられたる檀那樣

「革命家さ、南支の大元帥だよ」

「それから」

「それで澤山ぢやないか」

「それ位はあたしだつて内地に居る時から知つてゐてよ」

「それだけ知つてれば十分だ、俺だつてそれ以上知らないんだがね」

「でも、何時でも一角の支那通らしい顔してゐらつしやるぢやないの」



「幾ら支那通だつて、孫文の張番してる譯ぢやあるまいし」

「最近孫文が赤化したんですつてね」

「……………」

噫、孫文の赤化！これが孫文に關する日本人の最近の知識なんだから堪らぬ。孫文は最初からのソシアリストなのである。今ごろ孫文の赤化等といはれるは、孫文に取つて最も羽痒い評判ではあるまいか。

兎も角も孫文に就いてはもう少し、知つてゐてよい。知つてゐてもよい人物である。

### 孫文小傳

孫文、字名を逸仙と稱し、中山と號す。彼が亡命して東京の一旅館に投じ、中山樵と偽名して宿帳に書き着けた。中山の號はそれより始つてゐる。

彼は一八七二年布哇 *Mani* 島 *Kalu* に生れた。出稼人の子供である。宮崎滔天の支那革命物語には廣東省香山縣の片田舎なる農家の次男坊に生れたとある。が布哇の華僑達は、布哇出稼人の

産み出したる偉人と稱して、彼の布哇に生れたることを主張する。思ふに廣東香山縣より出稼に行ける農民の息子であらう。孫文自らも布哇生れだとは吹聴したくあるまい、其邊のところは大に斟酌して訊き正さぬが禮儀といふものである。遮莫、彼が海外に育ちたることは興味あることではあるまいか。幼少からの國際的境遇に、どの位か彼は進取的に、而も愛國的にはぐくまれたことであらう。

彼を偉大ならしめる爲めに今一つのグッド、コンディションが横はつてゐた。それは彼が貧しい百姓の子であつたことである。古來偉人は貧乏百姓の家から出る。親の地位と財産を誇るやうな倅が親よりも偉らく成れやう筈が無い。孫文の父が貧しい農夫であつたことは、孫文を侮辱する爲めに書かるべき傳記一頁の材料ではなくして、彼を一層激稱——し世の貧兒を奮ひ立たしめる爲めの言葉でなくつて何んであらう。

十三歳の頃布哇のミツシヨンスクールに入學した。常に首席を占めて、米國人學生を畏敬せしめた。十七歳の時洗禮を受けてクリスチャンとなつた。一體支那にはアーメンの裡から割合多數の人物が出てゐる。顏惠慶もそうだ。王正廷は勿論、馮玉祥、徐謙皆そうである。何でも大臣級



に二十何名あるそうだ。

學生當時常に洪秀全を思慕し、太平天國の亂を想起すれば、思はず手に汗を握るといふ風であつた。基督を信じてから以來、無學なる兄は、彼を異端となして、信仰の放棄を迫つて止まなかつた。孫文は遂に出稼苦力の家兄を説得し得ざればこそ、學を中途に抛つて本國に歸らざるを得ざるに至つた。郷里に歸れば郷村の農夫達は彼が横文字を書き、耶蘇教を知れるの故を以て、大學者といひ洋行歸りと稱して、その新知識を甚だ尊敬した。孫文は先づ村道を改修するやら、農事の改良を説くやら、街燈を點せしむる等、着々村改革を實行した。

二百戸に足らぬ郷民は彼を教育して、遂に月額六圓を齎出して、孫文を廣東の醫學校に送つた。彼は一年餘廣東に學んで後、香港に到り、五年間醫學を研究し立派な大夫おかしやになるを得た。香港醫學校は必らず支那革命史談の話題に上るべき學校である。孫文も陳白も鄭弼呂もこの學校に學んだ。孫文、陳白は興中會、鄭弼呂は三合會の頭目となつて、後相提携して革命に奔走したのである。香港醫學校に於ける孫文は、全校第一の秀才で非常なる勉強家であつた。學資の乏しい爲に學校の事務を手傳ひ、月給四十餘圓を貰つて且つ働き、且つ學んだ。學ぶこと五年第一期卒

業生の首席といふので、非常なる人氣を以て校門を出た。私達は彼が首席であつたことを何故に事々しく書かねばならぬか。それは言ふまでもなく、この醫學校に學べる陳白、鄭弼呂その他の志士が、革命の校を語り、排滿に泡を飛ばす時に、何時も孫文が連中の牛耳を握り、仲間の中心たり得し所以は、孫文の常に首席を占め居りしところにも大に預つて關係して居らうではないか。

卒業後彼は澳門に至つて開業したのであるが、貧民にインテレストを多分に持てる彼なれば、治療を行ふことを忘れなかつた。評判は貧民から廣がつて、門前市を爲すが如くにはやつた。立どころに數萬銀を獲たれば、彼はもう革命運動に食指動いて、商賣はそつちのけになつた。それより澳門の醫院を閉して廣東に戻り、表面は醫院を開き乍ら、其實着々革命の宣傳に取懸つた。

醫者であることは、彼が色んな人物に接近するを容易ならしめた。彼は興中會を組織して、自ら總理となり、陳皓東を副總理となし、彼が革命運動の最初の祕密結社を組織した。折柄日清戰爭にて清朝は専ら視線を日本に向けてゐる。孫文等は好機至れりと爲して同志を狩集め、彈丸を輸入して着々革命の隱謀を進めた。間もなく日清戰爭は休戰状態とはなつたが、李鴻章は國を外



に下關に至つてゐる。これまた逸すべからざる機なりとして、自ら總司令となり、陳皓東を軍司令と爲し、西河南河に陸軍を集中し、香港よりの一隊を合して、三方面より一舉廣東省城を衝かうと欲した。然るに明夜總攻撃といふ時、俄然隱謀は露顯して、陳皓東先づ捕はれ計劃は忽ちに破れ、陳白、鄭弼昌、孫文等僅かに身を以て逃がるゝを得た。それより澳門に出でドクトル、カントニイに身を寄せたが、ドクトルの注意により先づ日本に亡命せんとて、横濱に向つた。この後も彼は幾度か廣東を逃げ出したのであるが、恐らくこの時くらひ、残念なことは無かつたであらう。

横濱に滞在すること三日それより布哇に渡つた。布哇は孫文の故郷である。同志を得幾何かの路金を得たれば、米國に渡り、更に英國に行き、大志を抱いて觀光の日月を楽しんだ。澳門のドクトル、カントニイは彼の老師なるが恰も英國に歸つて休養せる頃なれば、博士邸に寄食して見物の傍ら醫學諷刺を手傳つて、やるせない亡命の悶えを解き、氣をまぎらして過した。

——或る日曜の朝飯を食ひ乍ら博士夫人は孫文を顧みて戯れ言つた。

「支那公使館は此處から遠くない。道も知らないで、うろついてゐると捕えられますよ」

と笑ひ乍らに語つた。主人なる博士も笑ひ乍ら

「孫君の生命は貴いのだから少し用愼した方がよいよ」

等と戲談半分に語り合つた。食事が済んで孫君は途々見物し乍ら、教會に行く積りで一足先に博士邸を出た。ぶらり／＼二三町計りも行くと背後より突然

「孫逸仙君ではないか」

と英語にて聲かけるものがある。ふり返り見れば東洋人である。西洋人ではない。

「君は誰だね」

と反問した。するとその男は走り寄つて手を握り、今度は廣東語で

「私は久しく足下の雷名を慕つてゐるものです。今此處でお目に懸れるのは全く、神の引合せです。私の宅は遠くはありません。異郷でお目にかゝるは殊に不思議です。お茶一杯差上げますから、どうです、一寸お寄り下さつては」

孫君は敢て疑ふでは無いけれども

「會堂に行かなければならないから」



と断れば

「會堂の時間はまだ早いです。二分間でも五分でも、お立寄りを願ひ度い。家族も先生を慕つておますから、どの位喜ぶか知れませんが、どうぞ〜」

と懇請する。時計を見れば成程時間はまだ早い。此方も同郷のなつかしさ。さればといふので立寄る氣になり、伴れて一町計りも行くところを上つて行く、そこに裏門がある。とん／＼と扉が叩かれる。それを聞けば薄暗いところで、そこから二階へと案内する。誘はるゝまゝに一室に這入ると、主人は「暫く」と言葉を残して出て行く。その暫くが三十分経つても誰もやつて来ぬ。會堂行きの時間に遅れるを氣にして、立ち上つて扉を推せども開かぬ。ハテなと思つてガラス戸越しに外を眺むれば、そこは廣い庭があり、大きな家がある。よく／＼見廻せばハタと眼に着く白抜の旗柱、その頂には青龍旗がヒラ／＼翻つてゐる。サテは支那公使館に、我れは欺かれ、幽閉せられたのであるか。孫君は始めて氣が着いたのである。

廳で公使館お雇ひの英國人が顯れ来た。そして左の如く宣言する如く語つた。

「君は今罪人として此處に拘留せられたのである。此處は支那公使館である。支那公使館は支那

國と同様である。左様心得るがよい」孫君はそれに對して、

「自分は國事犯罪人であるけれども、國事犯罪人は外國では自由である。是は國際公法の定めるところで、自分を欺いて此處に幽閉したことは、國際公法を無視蹂躪したことになる。若しこの事が英國政府の知るところとなつたら、必らず國際問題を惹起するに相違ない。日清戰爭の原因も、一朝鮮の亡命客、金玉均が支那政府の爲めに欺瞞されて、上海に於て殺害せられたことから起つたではないか。君は最近の事實を知らぬことはあるまい。されば今の中に支那公使に忠告して自分を自由の身となすのは、實に支那に對して君のなすべき義務であるばかりでなく英國に對する義務である」

と大に公法上から立論して、彼を説得することに努めたのであるが、引かれものの小唄何等の反響もなかつた。

二時間程経つて晝飯が運ばれた。孫君はこの支那人ボーイを説き伏せて手紙をカントニイ博士に届く可く頼んだが、それも承知して呉れぬ。遂に夜に入りて鉛筆を取出して、自分が今支那公使館に幽閉せられて居ることを書いて、誰れでも見て呉れよかしに、その紙片に銀貨を包みその



重みで、窓から外に投げたのであるが、庭廣く道遠くして悉く墻内に落つる。幾度かこれを顧みたが、一つも墻の外に及ばぬ。而して銀貨も亦盡きて了つた。

その翌日から飯を運ぶ支那ボーイを説いて手紙の使ひをさせやうと努力したが、なか／＼承知せぬ。四日目に彼はやつと承知した。孫君は切にその成功を祈つて居たが、ボーイはその手紙を館内の役人に示したために却つて隠し持ちたる鉛筆まで没收せられたつた。

五日目に室内掃除の爲に一人の英人ボーイが來た。孫君は彼に向つて一生懸命に同情を求めた。彼は遂に「貴君は何の犯罪であるか」と問ふた。孫君は此處ぞと計りに「君はアルメニア人の虐殺を知つてゐるか」と問ふた。「然り知つて居る」と答へた。仍で孫君は「僕は耶蘇教徒である。支那人はそれを蛇蝎の如く嫌ふ即ち耶蘇教徒を虐待迫害虐殺するのが支那政府の目的である。君が助けて呉れなければ僕は數日の後に支那に送られて同宗のものと共に殺されるのである。生か死か唯君の良心の動き方によつて定る。支那政府に忠なると神に忠なると何れが重きや、願くば正しき判断を下せと云つて救を求めた。暫く考へて居たボーイ君は「然らば我は君の爲めに如何にすべきや」と問ふた。孫君は「僕の友人のところへ手紙を届ける計りで好いのだ」と答へた。

「手紙を書きなさい」とボーイ君は言ふた。孫君は其誠意を感謝し乍ら紙片と鉛筆を求めた。使は「今夜のことにしやう」と云つて出で去つた。

今夜と云ふ今夜は孫君に取りて千秋の思ひである。否生死の決する運命の岐路である。而してその夜は遂に來た。ボーイは孫君の寢てゐる枕許に鉛筆と紙を置いて黙して去つた。

孫君は心に感謝しつゝ腹這ひになつてカントリー博士への手紙を認めた、翌朝早くボーイは來た。そして其手紙を受取つて去つた、又その翌朝ボーイは顔を出した、届けたかと尋ねるとまだ細君と協議せぬからといふ。孫君は更らに議論を以て勵まして金を握らした。彼は首肯して出で去つた。

カントリー博士の方では孫君が三日も四日も歸らぬので、萬一のことには無いかと心配して、處々の警察に頼んで捜索中であつた。そこにボーイが孫君の手紙を持込んだ。カントリー博士は吃驚仰天、直ちに外務省に驅けて此事を訴へ出でた。時の外相ソールスベリー卿は早速強硬なる抗議を支那公使館に申入れた。然るところカントリー博士は二三の巡查を伴れて公使館に乘込み自ら強制的に搜し孫君を引出し、馬車に乗せて伴れて歸つた「是が若し三日後れたら孫君は支那の船



に乗せられて廣東に送られ、此處で斷頭の刑に處せられるところであつたのださうだ。その船が來るを待つた爲めに一命を拾うたやうなものである。誠に天運といふの外は無い。」

以上は明治二十九年の夏の出來事で宮崎滔天氏の聞かれた孫文實話思出の一節であるそうな。彼はまたその折「倫敦にて誘拐された孫逸仙」いふ書物を書いて。その一五一什を語つて居る。

翌三十年彼は飄然として、日本に來り、横濱に在りし同志、陳白の許に留つた。陳白は當時已に邦人間に知られて、日本人中支那の革命に興味ある人々は陳白と交通してゐた。宮崎滔天平山周、可兒長一等は孫文に會せむ爲に廣東より歸り、陳白の寓居に會見することを得た。宮崎滔天は實名虎藏、白蓮輝子令夫人に依りて名を高めたる宮崎龍介の父君である。夙に外務省の命を含み、犬養木堂の推舉に依つて支那に押渡り、民間の結社の事情を視察し、何時の間にか革命志士の志氣に惚れ、自らも一角の支那革命志士となり了せた人である。蓋し支那革命史上必ず載せらる可き人物であらう。

宮崎滔天の紹介に依り、東京に到つて孫文は犬養に逢ひ遂に移つて東京に一戸を構へた。或は金錢を以て或は加勢に依りて日本人中彼に同情するもの甚だ少くなかつた。就中犬養教、頭山滿

はその最も有力なる邦人であつた。

三十一年の秋に至つて、孫文は東京の居を疊んで横濱に移り、宮崎氏と共に再び香港に到つた。時恰も戊戌の政變に破れたる康有爲は香港にて宮崎氏に助けられ日本に亡命するに至つた。爾來康有爲と孫文とを相提携せしむと欲する計劃が邦人志士が胸中に往來した。

然るに廣東の劉學詢なるものより、京書が届けられて書中「李鴻章と孫文の提携が提議せられてあつた。當時李鴻章は兩廣總督であつたが、兩廣の獨立を圖らむと欲し、その憎む所の康有爲を暗殺して、孫文を迎へ、新政を布かんと欲した。すなはち劉學詢は孫文に康有爲暗殺の任に當ることを望んだ。そこで孫文は兎も角も李鴻章に會見して見る氣になり、宮崎虎藏、内田良平等の諸氏を伴ふて廣東に至つた。李鴻章は砲艦を派遣して彼を迎へしめ、劉學詢は宮崎、内田と會見して、康有爲暗殺の費用三萬元を提供した。然るに間もなく李鴻章は清廷の召を奉じて、北上し中央に勢威を拂ふに至つたが爲めに、自ら計劃も畫餅に期した。三萬元を物にしたる孫文の一行は、康有爲を索めに新嘉坡に向つた。無論胸中康有爲を暗殺するの意圖をちよつとでも有せる譯でなく反つて孫康の提携を策せむと目論見だことは明かである。



然るに東京、横濱に在りし康有爲一派は、孫文等の計畫に康有爲暗殺の隠謀あるを探知して、新嘉坡に打電して、康有爲をして警戒せしめた。宮崎、内國兩氏は新嘉坡に着するや、康有爲が保護を政廳に乞ひたるが爲めに、直に兩氏は捕縛せられて獄に投ぜられた。勿論廣東の三萬元のたゞりである。世の策略も餘りに巧妙に失する時に、往々にして自ら覆るものと知るべきである。それより孫文は香港または臺灣に止りて、再舉の機を待ち設けることにした。

宮崎滔天の「三十三年の夢」に依れば鄭弼呂は大鵬灣附の三州田の出塞に兵を聚めて、革命の旗を擧げ、孫逸仙の指揮を待った。孫文は事の餘に早く露顯したるを憂へて、寧ろ惠州、の厦門の方面に突出すべきを打電して、軍器の送附を急いだのである。遇々比律賓獨立運動に用ふべかりし彈丸三百萬發を手に入るゝを得て之を直ぐ送附せむと欲したが、邦人某の不誠實の故に、間際になつて、事志と違ひ、彈丸送附を實行する能はず、鄭弼呂は再び旗を卷いて、手兵を解散せざるを得ざるに至つた。

それより米國に遊説し、軍費と援助の爲めに東奔西走した。其當時は日本に行かずして、米國に至るの必要があつた。孫文は從來日本志士と共に畫策提携する所あつた。日本志士には些の私

心だになかりしと謂ふも、支那人中猶日本志士の其純俠純誠を疑ふものもあつて、革命黨の行動を頗る危惧するものも少くなかつた。革命黨にして失敗するならば、事は無からんも、萬一成功するに至らば、必らず日本に乗ぜらるゝ所あるべしと爲した。斯る時に孫文の遊米は必らずしも誤解をとく爲のみならず、少しはその邊に考慮があつたかと察せられる。

彼が米國にありし時に、突然辛亥の秋十月十日武昌に義旗翻つて、革命は孫文に關係なく火蓋を切るに至つた。世の人往々にして、武昌起義の擧をも孫文の名譽に期するのであるが、誰か、西半球の彼方にあつて、東半球の武昌を指揮し得むやである。支那の晝は米國の夜である。多分支那大陸の真中に、革命戰の喊聲を上ぐる頃は、孫文は北米大陸の真中に、革命の夢を見て、鼾聲を上げてゐたであらう。

十三省已に革命に加擔し、大勢革命に有利と聞いて、倉皇米國を去つて支那に歸つた。還れば直に彼は元帥に擔がれ、南京臨時政府の大總統となつた。

「文、祖國を離るゝ十餘年、今日故土を踐むを得たり。樂何ぞ言ふべけんや、此れ皆公等の賜なり」



これは彼が聯合軍總司令に宛てたる電報の一節であるが、實際その言の如しである。而も猶彼を推して、革命の中心的人物と爲すは、怎ういふ譯か。果して觀察の謬れるか。思ふに「革命は戦争ではない。革命は風氣である。革新である」然らば孫文が辛亥革命の戦争に参加しなかつたからとて、必らずしも革命に無關係であつたいふを得ない、武昌起義に到るまで、醗酵せしめたる革命の風氣は、孫文彼自らの偉大なる貢献であつたに相違ない。

## 二 孫文學說

共和以後に於ける孫文は、また別項に紹介するとして、今は單調を破る爲めに、先づ彼の思想哲學方面を紹介するとせう。

ジョンデユウイはその著「支那及日本からの手紙」の中に、孫逸仙は一個の哲學者であると書してゐる。—Ex-president Sun Yat Sen is a philosopher as I found out last night during dinner with him である。何んのことはない。ジョンデユウイは、例の「孫文學說」を聞かされたのである。…To know is easy, to act is difficult である。

其處で米國の哲學者デユウイ博士の説に従つて、彼を哲學者と爲し、その學說を研究するであらう。「孫文學說」は著者が孫中山校閱者が胡漢民となつてゐる。百頁餘より成る小冊子である。大洋六角が定價であるが、四十仙を投ずれば必らず一書を手に入れ得る。全書八章から成つてゐて、第一章は以飲食爲證、第二章は以用錢爲證、第三章は以作文爲證、第五章知行總論、第六章能知必能行、第七章不知不能行、第八章有志竟成、つまり飲み食ひのことで先づ立證し、それからお錢のことで證明、次は稍々高尚なる文に例をとる所、なか／＼用意周到である。而も要するに「行易知難」の一句に、論旨は盡きて居る。

「知易行難」と陽明は説いたのであるが孫文は「行易知難」と喝破したのである。之を食物に比喩せば支那料理は世界の割烹に比して遜色なきのみならず、歐米人と雖も之を味はつて、舌鼓を打つ、米國に於ける支那料理の流行、最も普遍的である。西洋料理店が之を嫉視して、支那の醤油は有毒であると言ひふらしたことがある。米國官憲はその醤油を試験検査したが反つて非常に滋養に富めることが解かつた。また東京に於ては支那料理店は軒を並べて居る。

然るに支那國民は、その料理が衛生上如何なるものであるか蛋白質の分量、人體との關係、全



然無知識である、歐米人は豚や牛の臟腑は食物にしなかつたけれども支那人は皆料理して之を嗜食する。支那人は豚や牛の血を棄て、顧みなかつた。けれども最近に至つて最も滋養のあるものといふことになつた。食し得ることを知るのがむづかしいので、食することが六ヶ敷しいのではない。

金錢を費ふことは極めて易いけれども金錢が偽物であるかを知るは最も困難である。アダムスミス如き經濟學者は、金錢をかくの如きものと稱し、社會主義者は人間の勞力であるとも言ふ。金錢を用ふることは拵えることは極めて易いのであるが、之が何物であるかを知るは最も至難である。

文の如きは然りである。支那の國民は昔より文を用ゐてゐる之を書き之を學ぶことは、さほど困難ではない。けれども、その文が何であるかを知るは最も六かしい。若しも文の何者であるかを知るを得ば、之を廢止、之を改革することは六ヶ敷しいことではない。建築、造船、都市建營、運河、電氣、化學等皆之を發見し、發明し、之を研究することは最も困難であるが、一旦知られたらば之を行ひ、用ゐることは造作無きことである。

「孫文學說」は實に、親切すぎる程に解り易く論述してあるけれども要するところ、「知難行易」の四字に盡くされて居る。

成程孫文のいふ通りである。けれども陽明の「知易行難」は聊か孫文の解する所と、差異ありはすまいか。陽明のいふ所は、飲食を以て證と爲すよりも、金錢を以て證と爲すよりも、手取り早く孫文先生を以て證となし革命事業を以て證と爲すが、最も會得し易くはあるまいか。即ち孫文先生が、新しい思想をお知りになつてゐてもそれを天下に行ふは六ヶ敷くはあるまいか。革命の事業は口角泡を飛ばして論議せらるゝけれども、之を成功せしむる爲には、十三年の日月を費やすも困難ではあるまい然らば「知易行難」また穴勝、僞言なりと云ふを得まい。

### 三三民主義

高橋政友會總裁と原敬墳墓の地に争ひたるは田子一民。孫文の政治は三民主義。差引孫文の方が二つばかり多し。

「三民主義とは何ぞ。すなはち民族、民權、民生である」とある。つまり民族主義、民權主義、民



生主義の三主義の並行實現を理想となすものである。先づ民族主義から説明するを要する。記者は正確を期する爲に、寧ろこの場合、孫文自らの講義を翻譯するであらう。

「民族主義何ぞ民族主義を説くか。まだ完全に目的を達して居らぬからである。滿洲から中國に來つて、我等漢族を二百幾十年の間征服してゐた。今日滿朝は轉覆されて漢業は復興したのであるが、まだ吾民族は自由獨立し能はぬ。我黨が消極的にして積極的行動に出でざる間に已に歐洲大戰は終を告げて、世界の局面は一變して、潮流趨く所、民族自決に重きを置かれてゐる。我中國は世界民族中の最大問題である。東亞の國家に在つて、一個の暹羅、一個の日本が完全なる獨立國と稱し得るのであるが、中國は國土廣大にして、人民は衆多である。彼等兩國に比較して數十倍に止らない國土は廣く人民は多いのであるが、半獨立國と稱せざるを得ない。これは如何なる原因に依るか。これ實に吾黨の錯誤であつた。光復の後、世襲の官僚頑固なる舊黨、復辟の宗社黨が一致共力、五族共和を叫んだ。それが根本的誤謬である。此處に於て五族の人口を考へるであらう。西藏は四五百萬に過ぎず、蒙古人は百萬に達せず、滿洲人も數百萬を出でず、回教徒は多いが大部分は漢人である。彼等の形勢を見るに滿洲は日本人の勢力の下に居る、蒙古は露西

亞の範圍になり、西藏は英國の囊中にある。彼等には自衛の能力が皆無ではないか。我等漢族が彼等を幫助せばよいのだが、漢は四億と稱し乍ら、或は尙此數以上であるにも拘らず、未だ獨立したる眞正の漢族の國家を組織することができぬ。實に是れ我等が大なる羞恥とする所即ち本黨の民族主義の未だ成功せざる所以である。

されば我等は尙ほ須く民族主義を主張する必要がある。滿蒙回藏を我漢族に同化せしめ、一大民族主義の國家を成さねばならぬ。試に見よ。米國は今日世界最強最富の民族國家である。彼の民族結合其裡に、黑人種あり、白人種あり、其數十百種を下らない。世界中民族最多の集合體である。米國國家成立以來、英國人、和蘭人、獨國人、佛國人は彼の組織の中に參加した。米國全部人口一億、獨逸種は米國に在つて約二千萬、實に全人口の五分の一を占めてゐる。英荷佛の各種も米國に於て少くない然るに米國を何故に英荷佛獨米と稱せずして、一つの米利堅といふか。米利堅は一つの數民族となつたと知るべきである。英荷佛獨種が米の中に同化して、一名詞を爲すに至つた。而して今日では米利堅民族といつた方がよい。看看民族の作用偉大不偉大。米國の民族主義は乃ち積極的民族主義である。我黨は米國を模範とすべきであらう。今日我等は民族主義を講じて、五族の



籠統を爲し得ぬ。どうしても漢族の民族主義を講ぜねばならぬ。或人は五族共和を説いて已に久しい。此時漢族を單に考へるとは滿蒙回藏の欲せざる所ではないかと。と言ふであらう、此のとは憂ふるに足らない。彼の滿洲は日本に付き、蒙古は露西亞に屬し、西藏は英國に附し彼等に自衛の能力が無い。然るに彼等を振はしめんとせば、どうしても我等漢族に頼らねばならぬ。されば調和の方法を以て、漢族を以て中心となし、我に同化を爲さしめ且つ其他の民族を建國組織の機會に参加せしめて、米利堅民族の規模に倣ひ、漢族を中華民族と改めしめ、一個の完全なる民族國家と爲さしめねばならぬ而して中米兩國は東西兩半球の二大民族主義の國家と爲るべきである。

以上譯し述べたる所に依つて孫文の民族主義は諒解せられたかと思ふ。民族主義といふからウイルソンの民族自決主義と間違へられ易い。思ふに孫文の民族主義には見逃す可からざる矛盾がある。第一彼は米國を餘によく見過ぎて居る。米國の民族同化は、黑人——あの國土を耕し拓いたる、土人——あの國土に先住せる、この二人種に及んで居らぬ。支那人を排し、日本人を拒んで居るではないか。而も猶米は民族主義の模範たり得るか。

第二に孫文の民族主義は、藏蒙回滿の五族に對しては、同化政策、それから白人種、日本人に

對しては敵對方針である。決して、民族自決でも無ければ、世界兄弟主義でもない。寧ろ漢族主義といつた方が穩當であつて、一目瞭然たらざるかと思ふ彼の三民主義がリンコルの *The Government of the people by the people, for the people.* から來たものであるならば、その民族主義は、今少しく何とか、超漢族的な内容を持來さねばなるまい。民族の批判はそれ位に止めて置いて、民族主義の研究に移るであらう。

『民權主義、今から民權主義を説くであらう。スイスは民權の發達した國家である。英米佛は民權主義を主張するけれども直接民權ではない。自分の民權主義はスイスの民主主義を採用した。即ち間接民權主義である。』

間接民權でも之を得るは容易ではない。血を以て購つたる代價である。間接民權に然りとせば、況んや直接民權は更らに困難であらねばならぬ。それこそ碧血を流さずして、得るべくもない。直接民權は人民が直接に「選舉權」を得るにある「罷官權」も人民に在る。立法の權利が人民にある。人民は之を起す可く、之を廢すべく自由である。

これ等の權利のことを、「複決權」と謂ふのであるが、人民が公意を以て、再び之を決定するこ



とができる。人民には「創制權」がある。即ち人民は公意を以て法律を創制することが出来る。

一選舉權、二複決權、三創制權、四罷官權この四つの権利が直接人民に在る、これ其の民權主義である。』

民族主義、民權主義やつと二つ述べ得た。然るにまだもう一民である。すなはち民生主義を紹介せねばならぬ。

『民生主義は即ち現今の社會主義である。自分は民生主義を講じたのは何時であつたか。今日國人は漸く社會主義を講じ出した。已に遅きの嫌ひがある。

社會主義の學説が中國に入つて未だ久しく無い。自分は社會主義の原文を「民生主義」といつて來たのである。然るに國人は民生主義の總てを往々誤解してゐる。資本家が一つの工場を開き數千の工人を備ひ、毎日每人に工賃を幾らか與へる。かくて資本家は衆に向つて、我の主義は民生主義だと誇る。斯の如き資本家の民生主義は眞正の民生主義とは非常に差異がある。資本家はその金錢の魔力に憑つて、工人を牢絡して、彼の爲めに死力を出さしめ、工人は血汗をしぼつて、少しばかりの工賃を得て居る。西書にいふ所の「血汗店」と相異らない。今日の人の民生主義は實に

五里霧中に入つてゐる。』

『自分のいふ民生主義は已に具體的辦法があつて、世人の如く、空談空論ではない。

中國の貧富が均しくない。昔から貧富は均しくないのであるが、今日の如く貧富の甚だ均しからざるは無い、昔は木工も器械を持つてゐたが、斧鑿鋸刀位のものであつた。今日では一日幾千の板を一人猶よく切り得る程に機械が發達し來つた。

最初に腕力を用ゐ、遂には牛馬を用ゐる二倍三倍の生産力を得今日では汽力、電力を用ゐて、千倍萬倍の生産力を生ずるに至つた。

生産力の増大に伴ふて、貧富の益々相距るに至つた。富める者は益々富み、貧しき者は益々貧しくなる。これが今日歐米の現状である。

今日中國は上下共に困難であつて、大資本家と稱するものは無い。工業も未發達である。故に中國に於ては社會主義を講ずる必要がない。吾國の地は大、物は博、資本家の千萬圓を有するも百人に及ばないではないか。何すれぞ社會主義を講ずる。

此語誠に然り、成程それに間違はないがしかし前者の覆は後者の鑑ではないか。今日の歐米の



貧富の闘争は、吾人の良き教訓であるまいか。されば我等は中國をして、今より、前轍を踏まざる様努力すべきであると考へる。

自分の民生主義には「土地」と「資本」の二方面ある、先づ土地の方から先に言ふ。歐米諸國は土地制が同じくない。英國の土地は封建制である。米國の土地は資本家の出資購買せるものである。自分の民生主義は「地權の平均」を主張する。

人民をして自己の土地の地價を報告せしめる。政府はその報告に對して二つの條件を持てゐる即ち、その地價に對して、地價相應の税金を課する。その税金の高きを恐れて地價を低く報告せば、政府はその地價にて其土地を買収することが能きる。依つて偽購することもなく、公平を保ち得る。民生主義の政策は「平均地權」に在る。今日は革命事業に成功して居らぬが、革命が成功したならば先づ解決せねばならぬのは土地問題である。

次に「資本」である、今世界の最大問題は資本であつて、最も難解決の問題である。凡そ已に資本の發達せる國家は已に辦法が無い。中國の如き資本の尙發達せざる國に於ては未だ雨の降らざる前に雨衣の用意ができる。早く法を設けねばならぬ。而して再び覆轍を踏まざる如くせねばな

らぬ。この間に關して、自分は實業計測なる一書を有する。外資を以て營利事業を建設せむことを提唱してゐる。市場を開き、工廠を建て、鐵路を修め、運河を開き、鑛産を發いて、天然物産を悉く公有に歸し各種新事業の利潤を公家に歸すべきである。京漢京徐津浦の鐵道の如きは、皆金を賭けてゐる、今日中國の鐵道は五六千マイルである。その収入は年七八十萬元ある。實に中國の凡ての收入中鐵道の收入が最も大い。』

外資を用ひて、國家が一大資本家となりて、支那の國富を開發せよといふのが孫文の社會思想である。つまり國家社會主義なのである、支那の工業の發達せざる前に、資本主義の暴威を振はざる前に、國家社會主義を國是と爲さむといふにある。けれどもこの場合支那の注意せねばならぬことは「餘に外國のソヴェレン(現金)を借りるとソベレーンチー(主權)で以てそれを償却せねばならぬことである。」ロハで貢いて呉れるものは龜三西原とその後なる日本のみであらうでは無いか。案外三民主義の紹介が長引いた。けれども割合詳しく述べられたかと思ふ。括弧はいふまでもなく孫文彼自らの言葉を引照したものに外ならない。



#### 四 五權憲法

一體支那人は自己創唱の學說を樹てることが好きである。日本學者は自分の説はなか／＼立てぬ。講義でも論文でも成る可くどつさり、他人の言葉を引照して、以て立論をオーソライズしやうと欲する。プラトンがあゝいつた。カントがこう述べたエマルソンが斯う論じた。テニソンがあゝ歌つた。ブランドー氏が、……サンドウイツチ君が……何んでもかんでも他人の言葉を以てせねば、自分も不安、他人も満足せないと見える。然るに支那人は章太炎でも梁啓超でも、自説を立てねば承知が出来ぬ。孫中山の如きに至つてはその「學說」「建國方略」の中に「我兄弟說」を幾度でも繰返へして居る。江亢虎の社會主義でもそうである。マルクスよりも自分の方が……てな所を發揮せねば満足できないらしい。

孫文は其支那人であるだけに、歐米の憲法を、鵜呑みに輸入することができない。そこで五權憲法なるものを創唱するに至つたのである。

五權憲法といふは、立法權、司法權、行政權、彈劾權、考試權の五權の謂いであつて、諸外國

ではその彈劾權が立法權の中にあり、考試權が行政權の中にあるのを、孫文は五權を並立せしめて居る。そこに孫文の「我兄弟創說」と謂はるる所以がある。

一體この思着きなるものは支那從來の政治から考へ着いたものではないかと思ふ。科學の制、監察官のあつた支那の舊るい制度を歐米の三權憲法に加えたものである。勿論試験監察官を民選にして、人民自らが試験及彈劾の任に當るところは、舊制と全然趣を異にするけれども、その着想に至つては、支那傳來の制度に據れるものである。

of people, by people, by people の by people に相當する民權を主張するのであるから、官吏參用の試験を人民自らが當らうと欲する。無論支那に於て着想されそうな制度である。江亢虎も略々同一なる主張を有する。一體支那では同郷の誼とか、知友とか情實とかに依て、官に就き官を離るゝ弊害がある。官を賣り位を買ふに至つてはその弊の最も極れるものといつてよい。かゝる支那に在つては試験の公平、採用の平等といつたやうな問題に對しては、他國の人民よりも一層、注意深いのである。五權憲法等と、殊更らに彈劾、考試の二權を提唱して止まぬのも、また必らずしも謂はれないことはない。



といふことは次のやうな意味なのである。孫文が五權憲法はわたくしの創説であると、えらそうに吹聴し誇りとしてゐるそのものが、實は支那に生れそうな憲法なのである。そういはれることに依つて、孫文の我兄弟創説の五權憲法が、世界にそう誇るべきものでも何でもなく、思へば寂しいものであるのだ。また世の進歩は、必要から来る。五權憲法もまた支那特有の必要から生れた憲法である。官位の賣買、賄賂受賂の激しい支那には、考試權だの彈劾權が確立さるゝ必要があるのだ。

遮莫孫文の着眼考想、思索に巧妙、深慮、周到、豊富、創造的なことはこの三民主義五權憲法に於て、充分認め得るのである。孫文が思想家として、現支那の何人にもその追従を有し得ざらしむる所、實に見上げたものである。章炳麟の學問梁啓超の才知、蔡元培の膽力、段琪瑞の摯實、吳佩孚の氣慨何れも一角に立てるものに相違ないが孫文の人格も決して、その何人にも輸するものではあるまい。

孫文といふと、直ぐ革命兒と来る。その觀念に謬はないがしかし、颯の如くに彼處此處に出沒する輕卒なる、隱謀策略に走り廻つて居る人間ではない。思想もあり、識見もあり、主義もある

人物である。その持せる主義の爲には、思想の爲には、筆と劍で戦ふて、うまさる苦節四十年の志士なのである。彼が三民、五權の政策は、彼が眼の玉の黒き間に彼の手に依つて行はれないかも知れぬ。彼の思想がその手腕を振はしむべく、餘に遠大であるかも知れぬ。けれども「主義と立ち主義と倒れむ、我身なり」と、飽くまで彼が初志を貫く時に、何れの日にか誰かの手に依つて、その思想、精神が實現せられること更に疑ふ餘地がない。

昔から、偉大なる思想は一代一世に功を成したものでないよしんばその偉大なる思想が、寒村避地に種蒔れたとしても、百年二百年を経る裡に、何時しかその思想精神が時代を作り、天下を風靡するものである。孫文の持てる最も偉大なるものは彼の手腕よりも思想、思想よりも精神でなくつて何であらう。げに「革命は斷じて戦争に依りてのみ成さることなく、必らず思想、精神に依りてのみなされる。」

彼にはステツツマンとしては餘に理想が高か過ぎる。あの理想を付して而も猶、妥協を許さるさない限り、苦節四十年は當り前のことである。



## 五 建國方略

孫文に「建國方略」といふ著がある。堂々五百頁にわたるステイトメントのコピーである。内容を分つて心理建設、物質建設、社會建設の三項に區分して居る。心理建設は「孫文學說」その儘で「孫文學說」は已に紹介済である。

第一章以飲食爲證。第二章以用錢爲證。第三章以作文爲證。第四章以七事爲證。第五章知行總論。第六章能知必能行。第七章不知亦能行。第八章有志竟成の八章に別れて居る。要するに全章を通じて「行易知難」「有志竟成」の二句に盡きて居る。「建國方略」にこの孫文學說を持出したる理由は、吾人の理解に苦しむ所であるが、察するに國家を改造し、社會を革命する、悉く個人の覺醒の上に築かれねばならぬと謂ふ、其邊に孫文學說が建國方略の卷頭を置した所以があるのであるまいか。若し夫れ、言ふべくして行ひ難きに似たる建國方略の二、實業計劃及其三社會建設に對する世評を前以て防禦する爲めに序文であると觀察するに至つては、餘に孫文の心裡を看貫き過ぎたるものと謂ふべきか。

建國方略之二は實業計畫である。物質建設とも書いてある。

目錄に

甲、交通の開發

子 鐵道を十萬英里

丑 小石路一百萬英里

寅 運河を修理し浚へる。

(一) 杭州天津間の運河

(二) 西江揚子江間の運河

卯 運河を新たに掘る

(一) 遼河、松花江間運河

(二) 其他の運河

辰 河を治める

(一) 揚子江の堤防を築き漢口から海洋まで洋船が直達し得る如く爲す



(二) 黄河の堤を築いて洪水を無くする

(三) 西江を導く

(四) 淮河を導く

(五) 其他の河川を導く

乙 電報線政、電話、無線電を全國に布設する

丙 商港を開設する

子 中國の北部、南部、中部に各一大洋港を建て紐約の如きものを築く

丑 沿海岸に種々の商業港漁業港を建設す

寅 河流の沿岸に商場、船埠を建設する

丙 鐵道中心及終點商港地は新式市街を作り。各公用設備を具へる

丁 水力の發展

戊 製鋼治鐵の大工廠を設けて

己 礦業の發展

庚 農業の發展

辛 蒙古新疆の灌溉

壬 中國北部中部に森林を建造する

癸 東三省、蒙古、新疆、青海、西藏に移民

以上の計劃を實行する爲に各國の餘貨を齎らしめ、中國開發の資と爲して可なりと雖、それには三段の用意を有する。第一段には各國政府が共同行動を保ち一國際團を組織すべきである第二段には中國民がこの舉を熱心に援助する様に爲し、第三段には其契約を廣州重慶鐵道敷設の爲めに、自分と倫敦波令公司が結べる契約に准じて、外國と契約を結ばねばならぬ。そうするならば人民も大に喜ぶに至るであらう。

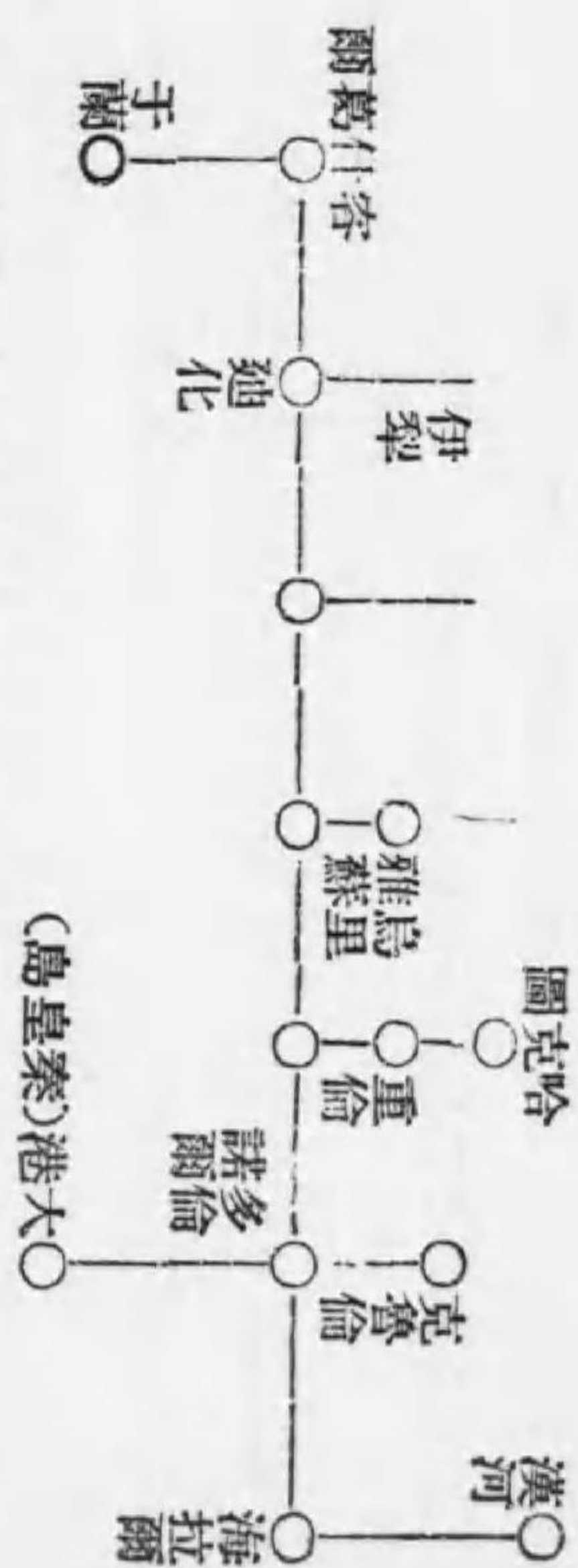
第一計劃は(一)北方大港を直隸灣に築き、(二)北方大港から中國西北極端に至る鐵道を建設し(三)蒙古新疆に殖民を爲し、(四)中國北部中部に運河を開修する、(五)山西の石炭鐵礦を開いて製鐵廠を設立するの五事業である。

北方大港は不凍港にして深水の地を選ばねばならぬから、太沽口秦皇島の間、青河灣河兩口



の間、即ち直隸縣に大港を築く。この計劃書が北京米國公使館の手に入るや、直に専門技師を派して北方沿岸を探查し、北方大港の設計圖を畫いて、孫文に送附したのであるが、建國方略にはその圖が寫真版を以て載せられて居る。

第二は西北鐵路の建設であるが、灤河附近の北方大港から多倫諾爾が凡そ三百米多倫諾爾は平原の物産集産地であるから、その物質を大港に運輸すべきである。多倫諾爾から西北に進展し興安嶺脈に平行して海拉爾を經、漠河に行く其延長八百哩である。これが第一線であるが、第二線は克魯倫を經て中露の邊境を通つて赤塔城に至り、西伯利亞鐵道に連絡するその延長が六百哩。第三線は沙漠の北境に沿ふて迪化城に行く延長約一千六百哩である。第四線は迪化北城から伊犁に達する四百哩。第五線は迪化の東南より天山の山峽を超えて才壁の邊境に至り喀什噶爾に至り轉じて東南に走り巴迷爾高原の以東崑崙山以北の沃地を過ぎ于闐に至り克里雅河岸に達する延長一千二百哩。第六線は多倫諾爾化間の幹線に一支線を開き連絡點を得庫倫より哈克圖に至る三百五十哩。第七線は烏里雅蘇から北にあたり西北に向ひ邊境に至る六百哩。第八線は幹線の連絡點から西北に走りて境に至る四百哩。



京漢鐵道は延長八百有餘哩であり、京奉路線は六百哩である之れ等に比較して、略々その大計劃なることを知り得る。この西北鐵路の建設に依りて、人口衆多なる京津その他の地に物貨を搬出し、また同時に海外に輸出することを得る。而してこの鐵道を中心として、移民することが出來、邊境の開発を計ることが能きる。

第三 蒙古新疆の殖民に依りて百餘萬の兵を有する支那の裁兵の問題を解決せむとして居る。第四は運河の修浚、第五は山西の領、炭礦の開発であるが、何れもその必要を説いて、「建築の計劃に至つては豫算その他は専門家の責であると稱して」具體的には何等述ぶる所がない。



實業第二計劃は

- 一、東方大港
  - 二、揚子江及河岸の整治
  - 三、内河商埠の建設
  - 四、揚子江現存水路運河改良
  - 五、大セメント工廠の建設
- の五大事業である。

東方大港の計劃港は杭州灣の乍浦岬と澉浦岬の間十五英里の所に建設する。上海港よりも數倍のものとなす必要があるけれども若しも上海を以て東方大港となすならば、その港底の土砂を毎年々々浚う丈けでもその費用を以て十數年後には充分に一大港を建設し得る。「我の計劃は利を獲るそれが第一原則である」と書いてあつた。

第二の揚子江の整治は、(甲)海上深水線から黃浦江の合流點まで、(乙)黃浦江合流點から江陰まで(丙)江陰から黃湖まで、(丁)無湖から東流まで、(戊)東流から武穴まで、(己)武穴から漢口

に至るまで、この五節に區分して整治すべきである。

實業第三計劃は

- 一、廣州灣を改良して世界港となす
- 二、廣州水路系統の改良
- 三、中國西南鐵道系統の建設
- 四、沿海商埠及漁業港の建設
- 五、造船廠の創立

の五大事業である。廣州灣は深水にして地點もよく、港として最も適當して居る。西南鐵道は(甲)湖南經由廣州重慶線、(乙)貴州經由廣州重慶線、(丙)桂林瀘州經由廣州成都線、(丁)梧州叙府經由廣州成都線、(戊)廣州雲南大理騰越線は緬甸邊界に至る、(己)廣州思茅線、(庚)廣州欽州線は安南境界の東興に至つて止る、この延長約七千三百英里である。これ等の地は礦産地にして中國本部に次ぐ豊沃地なれば一錢も損することなく敷設し得るのみならず、益營利事業として發展すること疑ひない己に中國の最も多く純利益を獲つゝあるは京漢津浦京浦等の鐵道事業である



ことから考へて見ても察するに難くない。

實業第四計劃は

- 一、中央鐵道系統
  - 二、東南鐵道系統
  - 三、東北鐵道系統
  - 四、西北鐵道の擴張
  - 五、高原鐵道系統
  - 六、機關車客貨車製造所の創設
- の六事業であるが、これに依りて禹城は勿論、邊境、至る處、蛛網を張れる如くに鐵道が敷設せられることになる。その延長十數萬餘英里。

實業第五計劃は

- 一、糧食工業
- 二、衣服工業

三、屋室工業

四、行動工業

五、印刷工業

の五工業を興す事業なるが、糧食工業といふのは食物の製産を増す事業であつて、農地の測量、貯藏庫農器の製造、大農式科學的農業を勃興せしむるに在る。二の衣服工業は生絲工業、麻工業、棉工業、毛羊工業、皮工業、製衣機工業等を改良し、原始的なる幼稚なる中國の工業を改良するに在る。其他屋室工業は建築の改良、行動工業は自動車、飛行機其他の製作印刷工業を設けて百科全書其他の書物の出版を爲す。

實業第六計劃は

- 一、鐵礦
- 二、炭礦
- 三、石油礦
- 四、銅礦



##### 五、特種礦

##### 六、礦業機器の製造

##### 七、冶鑄機廠の設立

の七事業である。

以上は孫文の實業計劃であるこれ等は凡て國家直營の事業であるが、彼は外資を用ゐて、それを最も妥當なる契約に依りて行ひ、國家の必須の仕事から着手して、百年の後、中國を世界に於ける最強富國ならしめやうといふにある。其處で彼の實業計劃をもう一度、簡単に説明するならば、直隸灣、杭州灣、廣州灣の三大港を建設し、この大港灣を基點として、奥地に向つて、鐵道を敷設し、更に中央アジアに至るまでその鐵道を延長し、而して、最後に、支那人民に文化生活を享樂せしめ、同時に海外に輸出する爲め、諸種の礦工業を勃興せしむるといふに在る。何といつても大事業である後藤新平でも支那に生れたら考着きそやうな、八億圓計劃ならずして、實に八兆圓計劃である。

どうです。ごたがひ東方の島國人種よいふて見る丈けでもよいから、計劃するなら之位の大計劃

を目論見て見たいではないですか。

建國方畧之三は民權初歩であるが、これは民有民治民享の主義に基きて、民權行使の方法を述べたものである、臨時集會の組織法、永久社會團體の成立法、議事の秩序、勸議、討論、表決、修正付委、權宜その他に亘つて逐條的に法則を規定して居る。で建國方畧は、其一に於て行易知難の學説を述べ、其二には建國計劃を述べ、第三には組織を決定して居る。只殘念なことには未だ其時其日來らずして、今尙建國方畧は一卷の著書たるに止つて、天下に之を試みるの機を得ざることである。之を試みて天下に施す時に、果して知難行易の眞實なるか、或は知易行難の誤謬なるか、實驗せらるることであらう。

##### 六 孫文の人氣

何時だつたか北京高等師範學校學生の人物投票に九十何點まで孫文が人氣を集めてゐた。北支に於て已に然りであるから、南支に在つては彼に及ぶ人氣者はあらう道理が無い。怎うして斯うまで人氣があるのであらう。



支那革命外史の著者北一輝氏は支那の辛亥革命が孫文に毫頭關係なかりしを説いて居る。親しく會見の機を得たる鶴見祐輔氏は孫文が、英雄偉人の風貌を有せざる如く報じて居る。然らば思想家として偉大なるか。讀者の知悉せる如く、頭の無い人物ではないが到底、綿密なる思想者とも見えぬ。

孫文の偉大は何處にあるか。愛國者なるか。彼は單純なる愛國者ではない、外國と協同することの好きな人物である。然らば賣國奴たるか。彼は日本人のお世話にあれ丈けなつた。けれども盲目なる親日家では勿論ない親英に見え、拜米に似、愛日に傾き、赤露に接近するかなれども彼は、中國を忘却することを爲さぬ。されば賣收の意味で、彼に何物かを施與せしものは、悉く失望して彼を忘恩の尻輕者と罵りて彼を棄つる、而も世界の凡ての青年子女が、支那人を知れりといへば彼の名を記憶せざるはない。

思ふに彼には、不可解なる魅力があるのであらう。現に私自身が孫文を愛する心持を何故と説明することが出来ないやうに私の心事を推して彼の人氣ある所以であるといふより外に言葉がな

或る日濟南で傍に立てる巡捕を掴まえて、質問を發した。

「閣下は、支那で誰が一番偉らうと思はれるか」

「孫文！ 那不用説」

巡捕の返答は卒直であつた。

また或る時奉天で、一女學生を相手に話したいことがあつた。

「あなたは中華軍主國を御存じですか」

「中華君主國おかしいな。中華君主國とは聞かないわ」

「君主ぢやない、軍主といふんですよ」

「ほ、ほ」

現支那は軍人閥の世の中、軍主國なのである。で、また問ふて見た。

「支那で誰が一番偉らうでせう？」

「孫文、そう思ひますわ」

噫、孫文はもう、精神的に支那を統一してる！。ではないか。人氣者、支那きつての人氣者た



るを失はぬ。近頃孫文の死を傳へてる。死んでも死なぬは孫文である。彼は何といつても支那近代の人物である。

## 蔡元培

### 一

「蔡元培つて本當に仕様の無い男である。先年彼が蘇報事件で、ちよつとではあつたが、日本に亡命してゐた折に、自分は色々世話した。先生電車賃にまで事缺いてゐたのですからね……然るに今日に至つて、道で逢つても知らん振してゐるんですよ……」

彼の爲めに電車賃を立て代へたといふ男が、大層憤慨してゐた。嘘か本當か知らないが、話の種にはなるやうだ。しかしよく日本人がこの種の憤慨をする。

梁啓超が戊戌政變の時、日本公使館通譯生某々の世話で、天津に落ちのび辛じて、日本に亡命するを得た。後年彼が熊希齡内閣の司法總長か何かの椅子を獲ち得た時である。通譯生某は書記官に陞級して北京に赴任して來た。早速彼は電話を掛けて、梁啓超に自らが參贊官になつて、來任したことを告げた。某は梁啓超も嘸ぞ喜んで呉れるだらう位に思つてゐたのである。

「……當時通譯生の某でありましたと、薩張記憶せないのですがね。存じませぬね」



書記官某はがつかりした後に、かつと怒つて仕舞ふた。以後梁啓超が大嫌だそうなの。

恚うした話は。支那に長く住む誰もが、一つや二つ位は必らず持合せてゐる経験である。日本では現在偉らくなつてゐる人に對して、その方の鼻垂小僧であつた當時を、赤裸々に喋つても失禮に當らぬ。以前に落魄してゐたことは、現在の成功を一層賞讃することになる。筑紫山濤のことが書立てることが添田博士の立志談を歎稱する辭ともなる譯である。然るに支那では全く勝手が違ふ。餘に多く往事を回談すると先方が腹を立てる。舊を談じて呵々と笑ひ、等いふゆかしい心事は無いのである。舊惡でも發かるが如く感じてぶり／＼怒る。これも國民性である。さらばと言つて、決して恩を忘れてはゐぬ。只國民性を異にする日本人には、奇異に見え、忘恩的態度に映するのである。

## 二

汽車は正陽門に着く。正陽門から天安門までは石頭道である。石の下には木炭が埋没してある。そうなの。天安門を入れれば其處には午門がある。午門の樓上京都を下瞰すれば、北京は正に森の都である。大和殿、午門、天安門、正陽門一直線である。然るに昔から午門は開かぬことになつて

る。無論迷信に依つて閉鎖されてゐる。

然るに袁項城は蔡元培を迎ふに、午門を開いた。魔鬼を信ぜぬ、凡有宗教を否定する蔡元培はためらふことも無く、午門を過ぎ行つた。蔡元培は中華民國の迷信を打破する人である。神秘の扉を開く人であると謂はれた。こゝで彼の經歷を書いて置く。彼は儒家に生れ、齡未だ而立に達せざるに進士に及第し、翰林院編修となつた。光緒戊戌政變後感ずる所あつて、郷里に歸り、國民新學會を立て、次いで上海南洋公學に教鞭をとり、愛國女學校を創立した。當時蘇報に章太炎、鄒容等と共に革命思想を鼓吹し、清吏の忌む所となりて、日本に亡命、後獨逸に留學、居ること五年歸朝すれば、南京政府成立し、彼は教育總長に任せられ、南北統一するに及んで、唐紹儀内閣の教育總長となり、唐紹儀辭職するや挂冠して、再び獨佛に留學、教育制度を視察し、袁項城の死して後北京大學校長となつた。五四運動の後一度、軍閥に脅迫されて天津に逃れたるも、再び復職し、政學會彭允彝の教育總長になるに及んで、これに挑戦し、辭して歐洲に去つた。現今佛丁白獨英伊の間を、視察して居る。袁項城の彼を迎へて午門を開きたるは、唐紹儀内閣の成立せし頃である。彼字は子民又鶴卿と稱す。浙江省吳興縣の人、年齡五十五。佛大學より博士を贈ら



る。

### 三

蔡元培は後妻を嫁る爲めに、去年新聞に廣告を行ふた。その條件が頗る振つてゐる。(一)英語が出来た女、(二)三十歳以上の婦人、(三)外遊を厭はぬ人とあつた。英語が能きる女でないといふ。自分は獨佛兩國語なら、どうにか話せる。けれども英語は薩張通ぜぬ。故に英語が能きれば好都合であると言ふのである。これに依ると通辯兼女房である。何と功利的妻選ではあるまいか。一事が萬事である。蔡元培はこの筆法で萬事に善處する。文學革命の風向をぢつと眺めてゐてもう大丈夫と見ると白話文學に團扇を擧げる。實に如才がない。恐らく彼位煮ても焚いても食へぬ人間はあるまい。而も彼は見識もあり、思想もあり、人望もある。支那青年達は孫文、その次が蔡元培であると言ふ。

北大の學生が排日運動に熱狂せる時、徐樹錚が北大を包圍して、蔡元培の身邊は危險に瀕した。蔡元培は突如天津に去つて、けろりんとしてゐた。排日を煽動せる如くにして、干與せざる如く裝ふ所實に妙を得たものであつた。北大に陳獨秀、胡適、李大釗、李石曾新しい頭の持主を、

大膽に狩集める。その太腹な、大膽なる、全く傍若無人であつた。

政學會の彭允彝が教育總長に就いて、學界を一掃しやうと爲すや、機先を制して、北京八校長連袂辭職、進んで挑戦した所等、到底も尋常の政治家ではなかつた。彼は未來の大總統であるだらう。西にレーニシ、東に蔡元培ありと謂ふ日が到來するかも知れぬ。

### 四

蔡元培に中國倫理史といふ著書がある。中等程度の教科書に適する。彼は孔子の「仁」を人格と譯して居る。「仁」を愛と稱して盡さず、忠恕と爲して足らざるが、「人格」と言へば最も適當であると言つて居る。

蔡元培に美學を論ぜるものが少くない。彼は美を以て宗教に代へ得ると斷じて居る。美的教育は充分なる宗教々育であると。彼の專攻は美學であるそなた。「蔡子民先生講演集」がある。この書に依れば略々彼の思想、傾向が解る。

先達佛蘭西の雜誌に、蔡元培の講演が載つて居つた。それに依ると支那にも、社會主義、世界主義、共產主義の思想があつたことを、恰も梁啓超の先秦政治思想史が述ぶる如くに、縷々講演



して居る。支那に居る頃は經書を今更解釋し直して、時世に合ふが如くに説明することを攻撃してゐた癖に、やつぱり向ふへ行くと支那の偉大さを廣告する爲めに、燒直したる支那思想を持出す必要があると見える。

間もなく歸朝するであらうが、歸れば北大の教授學生は是が非でも校長に迎へるであらう。それ程に人望がある。

## 支那の人物

書後にこの一文を載するは、述べ來れる記事が餘に散漫なるが故に、綜括して統一を與へむが爲である。先づ結論と謂ふところである。

曾てベルトラント・ラッセルは言つた。

「支那に一萬の Good man があるならば、支那は亡びないであらう。……」

この言に刺戟せられて、胡適の雜誌週刊「努力」は「一萬好人黨」の組織を提唱したことがある。果して今の支那に一萬の好人が見着つかるか怎うか。未だ寡聞にして「一萬好人黨」の成立を聞かない。無論成立せない間は、ラッセルも支那が亡びない國であるとは、保證能きない譯である。

昔ソドム・ゴモラは十人の義人を有せざりしが故に、神は焔の雨を降らせて、町を燒盡し灰燼たらしめ、滅亡させたまふた。ラッセルは十人に非らずして、一萬人なければ支那は亡ぶと見積つた。遺に支那は廣い丈けに、少々の義人では、追着かぬものと考へたらしい。



支那が亡びない、今猶亡びない理由は、一萬や十萬の善き支那人が、今猶生き残つて居るからではなくつて、阿呆でも無學でも何でもよい、兎も角も四億と謂ふ猛烈に多數なる人間が、この廣大なる國土一杯に繁殖して居るからではあるまいか。人間の數が多い、その人間が勞働に強い、金儲けが旨い、それが何よりも支那の強味であると思ふ。されば一萬の善人よりも、生存力の強い四億の苦力の方が、餘程大切である。一つ四億苦力黨を組織したら怎うであらう。

さうだ、その四億苦力黨を組織する爲に、約一萬程の善人が必要なのであらう。支那を纏める爲めに、善き人間を要する。そう言ふ意味であるならば、至極同感である。我等は更らに言ふであらう。一萬の善き人間、否千人でもよい、否々十人の義人があるならば、支那は必らず惠れるであらう。たつた十人の義人、それがこの廣い支那に無いと言ふか。

## 二

東亞に人物が無い。人物が無いものであるから提携せねばならぬ筈の日支が反目し、何時迄も埒に闖いで居らねばならぬ。實に世界の物笑である。ど偉い人傑が出現して、一舉に日支の宿案を解決し、東方百年の計を立てねばならぬ。そうでもせぬと日支は融合しそうもない。それも餘

程の大人物でないと間に合はぬらしい。

支那に人物が無い。どん栗の脊比べをやつて居るものであるから、何時まで経つても、支那は統一されぬ。纏らぬ。到底纏らない國であるかの如く謂ふものもある。本書は略ぼ支那を見渡して、面白ろそうな人物を選び出して、彼は怎うだ、是は怎うだと詮議詮索して見た。無論人物何處に在りやと思煩へるが故である。

詮索の結果、支那に人物がある。裡にあることを知つた。只それ等の人物で纏るべく、この支那が餘に大き過ぎる丈けの話である。日本位の小國なら、天下を取り天下を統べる位、誰にでも能きる。支那も日本位の國なら、怎うにか纏め得さうな人物が、さらには謂へなくも、數人はある様である。

十人の義人、偉大なる義人がせめて十人位出現せないと、支那を混亂から救ふことは能きまい策略や技量だけでは斷じて纏まる國ではない。人間の術策、手腕で纏める可く支那が餘に廣大なのである。

## 三



支那の人物を研究することは、色々な意味に於て、興味あることである。前項述べたるが如く支那の將來を考へて、人物を論ずることも面白いがまた支那國民性を考察することも最も有益である。無論現支那に活躍せる人物と雖支那人であるから、支那國民性研究の最もよい材料である支那を知るもの必らずしも、支那人でないから、支那人自らが意識せない、支那型といふものが、支那人物にある。あれ丈け澤山の人物が、群雄割據して居るにも拘らず、これ等の人物を類別し、仕別けることが能きから面白い。何れもが個性を發揮し、特徴を持てるが如くに見ゆるが、大體から論ずれば略一定して居る。梁啓超、章炳麟、康有爲、胡適愆ふ並べて見ると、丸で別な人々の様でもあるが、その傾向、歩行悉く同種の人物である。きちんと型にはまつて居る。この型それが支那國民性なのである。今更ら三國誌、水滸傳から材料を持出さなくつとも、現支那に生ける人物を研究すれば、殆んど充分に支那國民性が解る。實に現支那の人物考は支那國民性の横断面である。諸相悉く之に現はれざるは無い。

#### 四

章炳麟の如きは現支那での學者である。今日北大教授にして、學を彼に受けたるもの甚だ少く

ない。これ等の門弟は何れも、章炳麟が蘇報事件の爲めに亡命して日本に在りし頃、私淑したる留日學生の面々である。章炳麟は色々のことをやつた。革命思想を鼓吹して獄に投ぜられたることもあつた。袁項城の術策に乗つて北京錢糧胡同に幽閉せられたることもあつた。長春亭の土塀を破つて辛じて、逃亡し得たることもあつた。

彼の門弟には、先生をよく見るものがあつて、先生を書齋に幽閉して、その學を大成せしめむと欲するものがある。けれども先生はそれ等門弟の言を曾て聞いたことが無い。あれで彼は政治に關係することの方を、自らの得意と爲して居るらしい。

この章炳麟の傾向を、康有爲にも見出す。梁啓超に至つては最も著しく、胡適にすらある。兎もすると完成すべき支那哲學史を抛つて、政渦に飛び込まうと欲する。そう言へば夫子自らそうではないか。謂へば孔子傳來の支那學者型である。西洋の學者の如く、決して學究にのみ没以しては居らぬ。學問と政治を離して考へられたいと見える。

その代り章太炎、康南海、胡適之程の學者では無くつても、俗吏官僚にして、殆んど學問せざるは無い。何か知らこつゝ勉強して居るやうである。學者として頭角を顯はせるものが、必ら



すしも政治家として成功するものではない。それと同様に政治家として頭角を顯はせるものが、必らずしも學者として名を成すものではない。學問と政治、雙方に股をかけて、何れかで成功を爲したらよい。何れも成功すれば更によいといふ鹽梅のやり方である。故に政治家として失意の時は、彼達の勉強シーズンである。

## 五

支那人の學問にはやはり支那流がある。自説を立てなければ學問でないかの如くに感ずる。江亢虎がマルクストの共産主義からも少し借入れ、クロボトキンの無政府主義からも一寸取入れ、ギユルド、ソシアリズムも参考にし、其處へ支那學を加味して、江亢虎獨特の社會主義を編み出す。そうすることが非常な得意なのである。孫文でもその例からもれ得ない。

章炳麟が日本の漢學をくさしたのも、日本の學者に自家の哲學、自家の學説が無いからである。而も日本の學者は世界の多くの學者と共に、必らずしも自分の學説を建てる必要を感じて居らないのである。餘に目立つて自分の學説を振舞はすと、反つて人々に嗤はれる。學生も喜ばぬ。これも餘に極端ではあるが、支那の學者の如くに、自分の學説を建てることにそう急いで貰つて

も困る。

柯劭忞の「新元史」の如きは、如何なる文献に依つたものか、資料を怎う取捨したものやら、薩張解らない。西洋の研究方法から見れば、頼りない様なお可笑しいものであるかも知れぬ。而も其處に支那流があるのである。

凡そ學問に限らず、支那には支那流がある。その支那流を理解せないものであるから、馬鹿に支那を悲觀して見たり、癢に觸つて見たりせねばならぬ。支那に支那流を許すことがまだ／＼必要である。辜鴻銘は「馬の靴を人間に穿けといつたつて無理だ」といつた。南洋人が馬で支那人が人間であるとは定つて居るまいが、兎も角も西洋流に支那を考へたり、日本風に論じたりして貰ひ度くない。支那にはまだ／＼支那流があるんだから。

## 六

學者に支那流があるばかりでは無い。政治家にも可成明瞭に、支那らしい型が能きてゐる。

王士珍を訪問すると、その應接室が振つてゐる。八仙卓子、椅子、悉く朱塗の安物である。テブルクロスすら懸つて居らぬ。一個五圓を出すファニチュアは一つも見當らぬ。これが老政



治家王士珍の客間とは怎うあつても思はれぬ。丸でボーイか何かの部屋である。金を愛せずといつても、自ら持するに低くと言つても、之位無慾恬淡なる生活はあるまい。ワグネルの簡單生活も到底之以上に出ずることを得まい。

段琪瑞は、尤も自邸に訪ふた時ではあるが、綿服を着てゐた。鬚髭をしょんぼり垂れた老頭兒が、見すばらしい木綿の大掛子を着て出て來たものであるから、驚いたといふよりも人違でないかと思つた。

王士珍でも、段琪瑞でも、到底も日本人が想像能きない生活の一面を持合せてゐる。王士珍段琪瑞の如き生活型も決して珍らしいものでも無ければ、今の世に感心な人物と、激賞すべき程の型でもない。支那人と謂へば一も金、二も金で動くものと合點してゐると、王士珍の如きには範疇が當てはまらなくなる。

昔老莊の哲學が産れた國だけに、今日猶支那は道教の國であるだけに、虚無恬淡をエンジョイする人達が随分多いやうである。これを廉潔とか潔白とか言ふ言葉で、批評するには餘に虚無恬淡なのである。

## 七

支那らしい生活型を一々紹介することを止めて、綜合して論ずることにしやう。總じて支那人は複雑である。決して簡單な人間ではない。その心理は極めて複雑に動く。到底日本人等の對手になれそうな國民ではない。

支那人を術數に依つて御せむとすれば、必らず術數に依つて陥られる。日本人等の術策など、高の知れたものである。到底も支那人の相手は能きない。支那人は利に動く等と合點して、利を擱ませて居らうものなら、それこそひどい目に逢はされる。決して日本人の考ふるが如き單純な心理を持つては居らない。

されば支那人に對して、どういふ態度を持たなければ最も無難であるか、と謂ふに、それは至誠そのものであるそれで澤山である。天下何處に行つても至誠に抗し得るものは無いのである。至誠を以て支那人と取引し、至誠を以て交際する時に、如何に複雑なる心理の持主と雖、如何ともすることを得ないのである。また至誠を以て貫いて、失敗しやうとも諦めがつく。欺かれても誤するに足る。懸引、術策それは日本人の到底支那人に應用の能きる方便ではない。只その至誠一



貫に於て、日本人はよく支那人を動かすことを得むだ。人物論の結論としては餘に簡單ではあるが、讀者之を諒とせられむとを望むで、筆を擱くとしやう。

## 支那當代新人物終

大正十三年十月廿五日印刷  
大正十三年十一月十日發行

著者 清水安三

發行者 濱井松之助  
東京日本橋區鍛冶屋町一番地

印刷者 三澤善哉  
東京神田區三崎町二丁目十番地

發兌 東京日本橋數寄屋町  
大阪屋號書店

振替東京一三七五番  
電話大手三七三七番

支那當代新人物

定價金貳圓



清水安三著 支那新人と黎明運動

金貳圓五拾錢  
書留送十七錢

上田恭輔著 趣味の支那叢談

金貳圓五拾錢  
書留送十七錢

後藤朝太郎著 支那趣味の話

金貳圓五拾錢  
書留送十七錢

田山花袋著 滿鮮の行樂

金貳圓八拾錢  
書留送十七錢







終

